

名古屋芸術大学・大学院 後援会報

第66号 2019年3月31日発行



NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

CONTENTS

1	目次 後援会委員募集	29	親の想い
2	卒業生に贈る言葉	30	子の想い
3	名古屋芸術大学近況報告	31	私が就職内定をもらうまで
21	学務部報告 大学へのお問合せ先一覧	33	音楽学部 第46回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科 第21回修了演奏会報告 美術学部・デザイン学部 第46回卒業制作展報告
22	芸大祭報告	34	大学院美術研究科 第23回修了制作展報告 大学院デザイン研究科 修了制作展報告
23	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	35	後援会研修旅行報告
24	国際交流事業について	36	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
25	2018年ブライトン大学賞	37	大学運営組織図
26	第29回生涯学習大学公開講座報告	38	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集 編集後記
27	後援会補助公開講座実施報告		

後援会委員募集

名古屋芸術大学の御父母の皆様、日頃より大学後援会にご理解とご協力を頂き御礼申し上げます。後援会の会員は在校生の保護者の皆様でございます。後援会と致しましては、有意義で充実した学生生活を送って欲しいという願いでございます。活動内容は、後援会の立案、課外活動への援助、学生の学習環境を改善、学生の福利厚生に関する援助、保護者の希望を大学に反映させる活動、大学の正常な運営の寄与、などの活動を行っております。又、会員相互の親睦も重要な後援会活動のひとつです。後援委員会は大学内において開催し、学長及び大学関係者の方々にも参加していただいております。

来年、2020年は「本学創立50周年」を迎えます。本学にての学びが未来への貴重な財産となるよう一緒に活動めざしてみませんか。会員のひとりとして是非「後援会委員」へ参加してみましよう。

後援会では、随時委員を募集しています。ご連絡をお待ちしております。

【お問い合わせ】

電話：0568-24-0315（内線385番）

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 三浦真由美



NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

卒業生に贈る言葉



後援会長
山内 正春

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

期待を膨らませて入学した1年時。大学生活にも慣れて自分の適性ややりたいことを模索したであろう2年時。専門教育、実習が増えた3年時。そして就職活動が本格化した4年時。それぞれの学年で同じ学科の友人やサークル仲間との出会いや交流があり、豊かな学生生活を終えたものと思います。

私はこの1年、後援会会長として皆さんの多くの演奏や作品を鑑賞させていただきました。定期演奏会での、オーケストラのような電子オルガン、3次元的な音で奏でられたピアノの旋律、迫力のあるソプラノの声楽。どの演奏も素晴らしい、鑑賞するたびに次の機会を心待ちにしていました。

卒業制作展では、皆さんの発想力豊かな作品に感動しました。光を活用し、実物とその影を見事に活用した作品、暗闇空間の中の幻想的な薄光のなかに浮かぶ見事な情景や

静物、立体的なオブジェクトを用いた油絵等々。素人の私には想像すらできないバラエティーに富んだ作品を鑑賞させていただきました。そのユニークな発想と情熱に“名芸大生やるな！恐るべし！”と敬意の気持ちをいただきました。

これまでの学生生活は親に学費を払ってもらって一般教養、専門教育を学んでこれたわけですね。大学という組織を企業という観点から観ると、皆さんはある意味で顧客だったわけです。今後は社会人になり、労働力を提供し成果を上げた対価として給料をもらう側になるわけです。

最近の会社は、即戦力としての能力をより期待していると思います。「あなたの得意なことは何ですか？」と問われた時に、「私は・・・が得意です。・・・だったら誰にも負けません」といった自信をもてる何かの能力をもつことが重要と思います。その意味で名芸大を卒業した皆さんは、作品をデザインし、絵画を創作し、音楽を奏で人々を魅了する力、子どもを育成する能力を身につけています。これらは一般の大学生にはない特徴だと思います。この特徴を生かし、“名古屋芸術大学卒業生”という誇りをもって社会人として活躍することを期待しています。弱点を克服することは必要ですが、私は自分の長所を生かせる場所を探して、その長所を伸ばすように努力することのほうが成果を出しやすいと思います。社会人生活では、名芸で培った皆さんの長所を生かせる場所を探してください。そして、その場所で活躍できることを期待して贈る言葉とさせていただきます。



学長
竹本 義明

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

本学は、専門教育や分野を超えて融合した新しい学びである「ボーダレス」による大学教育を実施してきました。

実際にメディアデザインコースの映像制作とサウンドメディア・コンポジションコース、文芸ライティングコースと声優コース、アートクリエイターコースとエンターテインメントディレクション&アートマネジメントコース等で新しい取り組みが生まれています。

これからも卒業生が修得した知識や技術を社会で活用できるよう、教育の質を向上させることが重要と考えていま

す。具体的には、教育内容や教育方法の改善に取り組み、学生が身に付けた能力や付加価値が見えるよう情報公開を積極的に行ってまいります。

また、柔軟で多様な教育体制の構築のため実務家や若手教員を登用し、文理融合の社会変化に応じた教育を推進することが必要と考えています。

2019年度からは、芸術大学の固定観念を打ち破る教育で学生の世界を広げ・深めるプロジェクト「ワールドディア」を導入します。

芸術・教育分野において活躍のステージを広げるための表現力を身につける「アート&エデュケーションセクション」、世界・異文化に自分を伝えるための語学力を身につける「グローバルセクション」、学びを社会に還元するための思考力を身につける「キャリアセクション」の3つを軸に取り組みを行います。

このプロジェクトでは、多角的視野で効果の検証を行い、可視化を進め教育の多様化を図り、多様な学生の受け入れで社会に貢献してまいります。

本年も皆様のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願ひします。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部 / 芸術学部芸術学科音楽領域

声楽コース

声楽コースではいくつかの新しい試みがありました。

先ず昨年の秋、NHK名古屋放送局から「境界調査バラエティー」という番組の中で「ニッポンの分けめ」という合唱を演奏してもらいたいという依頼があり急遽学生を募り収録を行いました。学生たちは初めてのことで喜んで収録に応じてくれました。放送は10月27日でした。名前は出ませんでしたがしっかりと歌えていました。そこで流れていた声は実は本学の学生でした。本学の学生の声で電波に乗ったのは多分初めてのことです。

また声楽コースでは初めて合唱指導者のための指揮法講座を11月23日に開催しました。かねてから声楽コースではその実施を考えていた講座でようやく実現しました。HP等で募集したところ約20数名の方が受講しました。地元高校生から関西の大学生、合唱指揮者、それから教員でした。合唱指揮は勉強する場が無く、自分の考えや感覚で振っている人が殆どです。それだけに関心が高くこの講座に来てくれました。講座は第1部、第2部とあり、約4時間、本学の指揮法の講師、高谷光信先生の楽しい話を通して実のある講習会となりました。これは好評につきまた開催の予定です。

この他12月12日、愛知県芸術劇場コンサートホールにて、第36回オーケストラ定期公演「第九」で合唱に参加しました。参加者は音楽領域はもちろんのこと人間発達学部の学生も参加し、卒業生、一般公募の方々も含めて150名ほどが歌いました。一般的に150名ほどですと力不足のような感じになりますが、本学のように声楽学習経験者が多いとその合唱は迫力があり聞きごたえがあります。素晴らしい合唱を聞かせました。

そして定例の熱田文化小劇場での第17回歌曲コンサートが2月8日にありました。長年続いている歌曲演奏会ですが毎回これを楽しみにして来て下さる方が多く学生たちの精一杯の歌に大きな拍手が送られていました。

また3月16、17日にオペレッタ「メリーウィドウ」を名古屋市西文化小劇場で上演しました。西文化小劇場との第3回連携公演になります。今回は初めて青山音楽財団の助成を頂いての公演となりました。大人のストーリーとも言うべき軽妙洒落なオペレッタ、以前恋人同士であった二人が再度結婚に向けて一騒動があり、てんやわんやの事態になるのだが最後はオペレッタ特有のどんでん返しでハッピーエンドに収まるというものです。16日は学生、17日は卒業生で行いました。両日ともあつという間にチケットがはけて満員盛況でした。学生たちはこれに向けて1年がかりで奮闘します。卒業生たちも日頃活躍中の皆さんで学生と一緒に歌いそれぞれに刺激合って最高の勉強の場です。今年も出演者たちは大変素晴らしい舞台を演じ観客に大きな感度を与えました。

鍵盤楽器コース(ピアノ)

この春から、鍵盤楽器コース～ピアノ～に大きな改革があります。それは、横山幸雄氏と上原彩子氏の、特別

客員教授就任です。皆様よくご存知の通り、お二人は世界的なピアニストです。著名なピアニストであるお二人が大学に来て下さることを、とても喜んでます。お二人には、初年度ピアノ演奏解釈の授業をしていただきます。前期は横山氏6回、上原氏3回です。詳しい日程と内容につきましては、大学ホームページをご覧ください。尚、横山氏の授業は外部にも公開されます。また授業の前後には、毎回4人の学生の個人レッスンをお願いしています。立派なピアニスト直々のご指導に比べられるよう、皆、張り切っています。これからの鍵盤楽器コース～ピアノ～に、どうぞご注目下さい。

鍵盤楽器コース(電子オルガン)

平素より後援会の皆様には過分のご理解とご支援を賜りまして感謝を致しております。お陰様をもちまして電子オルガンコース(現在は鍵盤楽器コース)はコースも学生達も雰囲気よく、元気澆刺と学習に励めておりまして、重ねて誠に有難うございます。

変化という意味では非常勤講師の人事で幾つかございます。学生を愛し、私のもとでコースに対しても細やかな心遣いを頂けた伊藤幸代先生が、任期いっぱいということで惜しまれつつお辞めになることになりました。また、任期中ではございますが、電子オルガンコースに多くの学生を入学させて頂き、学生からも大いに慕われておりました亀谷真児先生が、この度、ご自身のお仕事のご都合でお辞めになることになりました。それから、ご報告を申し上げておりましたら重複にて恐縮ながら、2018年度からは、長く本学にお勤め頂いていて、ここ3年ばかりはブランクを設けられてました内村華緒理先生に講師として再びお戻り頂いております。ですので2019年度は、私、鷹野と太田美香先生、内村華緒理先生の3人体制で指導してまいります。

2018年度卒業生は総合コースで電子オルガンを専攻した学生を含めて3人、そして2019年度の新入生は未だ入学試験が全て終わっておりませんが、現時点でそれ以上の人数を頂いており、身の引き締まる思いです。

コースとしての演奏活動も、学部主催、コース主催の定期演奏会、夏のワークショップ、尾張一宮の七夕祭りのステージも形に致しまして、周りにも電子オルガンコースの健在ぶりを示せたものと自負しております。これも後援会の皆様のご支援のお陰と存じております。

2017年度より鍵盤楽器コースとして組み込まれました電子オルガンは、より広い視野で学生達も音楽に取り組むことができ、専任教員と致しましては大いに喜んでおります。旧式で申せば「学部」が統一され、正に芸術大学として、よりボーダーレスに、自由になりました環境で、学生達がのびのび、かつ貪欲に?!様々な刺激を吸収して成長してくれたらと願って止みません。余談ですが2019年度の3年編入でお迎えする学生は、本学の旧「人間発達学部」の卒業生であります。

等々、まとまりのないままのご報告となり恐縮至極でございますが、2019年度におきましても、後援会の皆様には是非、温かくお見守り頂けましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。季節は本格的な春を迎えますが、気候変動も激しい毎日が続くであろう中、皆様におかれましてはどうぞ、ご自愛頂けますように。

弦管打コース

弦管打コースでは後期に入る直前の夏休み後半から様々な活動が行われました。9月6～8日の3日間飛騨・世界生活文化センターにおいて強化合宿を行い最終日には同センター飛騨芸術堂において「名古屋芸術大学ウインドオーケストラコンサート」を開催しました。その翌週の9月16日には豊田市コンサーホール・能楽堂において「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第37回定期演奏会」が竹内雅一教授に加え本年度からウインドオーケストラの授業担当になった遠藤宏幸准教授の2名による指揮で行い日頃の練習の成果を発表しました。

室内楽の演奏会としては11月27日(火)電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて「室内楽の夕べ 2018(第一夜)」がオーディションで選ばれたグループによって行われ、12月1日(土)には名古屋芸術大学東キャンパス音楽堂において「室内楽の夕べ 2018(第二夜)」が大編成を中心としたプログラムで開催されました。

12月12日(水)には改装されたばかりの愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて「名古屋芸術大学オーケストラ第36回定期演奏会」が開催され高谷光信氏の指揮もとプログラムにベートーヴェンの交響曲第9番を取り上げ、合唱とソリストを伴った迫力のある演奏で観客を魅了しました。年明け1月12日(土)には普段あまり音楽に親しみのない市民の皆様楽しんでいただけるプログラムを用意し「名古屋芸術大学ウインドオーケストラ新春コンサート2019」を名古屋芸術大学東キャンパス音楽堂において開催しました。今年度で退官される星順治教授がトランペットのソリストとして演奏すると観客からは盛大な拍手が贈られました。

サウンドメディア／サウンドメディア・コンポジションコース

本コースは、音楽制作・録音・音響を学びながら、新しい時代のテクノロジーと芸術の関わりについて考え、作品制作に取り組んでいます。夏休み以降、通常の授業に加え、以下の活動に取り組みました。

8月10日(金)ベルリン芸術大学トーンマイスターコース教授トーンスタン・ヴァイゲルト氏を招いて公開講座「3Dオーディオワークショップ」を行いました。ヴァイゲルト氏は、2011年よりベルリン芸術大学の教授となり、以降、サラウンドフォーマットでの音楽制作を専門分野としていますが、非常に早い段階より、3DオーディオフォーマットであるAuro3Dでの制作を行っています。

本コースでは、今後、ゲームオーディオや、フィルムサウンドの世界で、これらの3D音響再生が求められていく中、作曲や録音、音響を勉強する学生が、今後自身の作品制作の中に3D音響での表現方法を取り入れてい

くことができるように、このワークショップを企画しました。講義の途中では、本学学生のサラウンド録音作品のプレゼンも行い、氏から講評いただきました。

10月4日(木)エンジニア・プロデューサー峯岸良行氏を招いて公開講座「ポップミュージックの音楽制作の現状と未来」を行いました。講義前半は、峯岸氏の今に至るまでの道のりについてお話して頂いた後、音楽業界の大変貴重なお話からこれからどのような音楽が求められているのかなど、大変興味深いお話をさせて頂きました。講義後半では、本コース学生による音楽制作作品、また録音作品について試聴して頂き、それぞれの学生に対して、的確なアドバイスを頂きました。

2月16日、本コース学生が、現代におけるアートのあらゆる可能性を探求し、音楽作品を制作しながら、映像や照明の演出表現を加え、アートと音楽の有機的結合をめざすコンサート、「2019～Natural～」を本学2号館大アンサンブル室で行いました。本コース学生による音楽制作・PA・録音はもちろん、エンタメコースによる照明演出、メディアデザインコースによる映像演出、また、今回は初めての試みとして今年度より新コースとして誕生した声優アクティングコースの学生に司会を担当いただき、コース・領域に問わず、学生の自由な発想力で演奏会を構成することができました。

サウンドメディアコース/
サウンドメディアコンポジションコース
長江和哉

ミュージカルコース

(後援会補助公開講座実施報告含む)

今年は9名の元気溢れる可能性の塊のような新人を迎え、例年以上のエネルギーなスタートを切りました。9名の中には2人の男性がいて、コースの雰囲気も大きく変わりました。

その1年生が前期公演で挑んだのがロックミュージカル「RENT」でした。若さだけでは成立しない難度の高いミュージカルでしたが、夜遅くまでリハーサルを続け、なんとかひとつの作品に仕立て上げることが出来ました。ちなみに、3年～4年は「WICKED」を課題にそれぞれの個性を引き出すリハーサルを繰り返しました。

7月は恒例の高山市での「ベストテン・コンサート」があり、その後「東新町クリスマス・コンサート」、「幸田町芸術鑑賞会」、「童話会議プレコンサート」などの公演が続きました。

新年最初のコンサートは今年で9回目となる北名古屋市の「ザ・ベストテン・コンサート」から始まりました。このコンサートは、名古屋芸術大学と北名古屋市の共催、ポッカフードアンドビバレッジの後援で、70～80年代の日本の歌を特集したものです。会場となった西春文化勤労会館には、毎年、このコンサートを楽しみにして下さっている方々が多勢ご来場下さいました。

2月は、これも恒例の「飛騨・童話会議」がありました。今回は11回目の公演で、飛騨ミュージカルカンパニーの子供たちとミュージカルコースの学生たちが熱のこもったステージを創り上げました。

3月のミュージカル公演は初めてエンターテインメン

トディレクションコースとのコラボレーションとなりました。2部構成とし、1部はミュージカル、2部はエンタメが企画構成したコンサートを上演致しました。

この公演は殆ど全てのセクションにエンタメの学生が参加していましたが、これが実現出来たのは後援会からの補助があつてのことだと感謝しております。

ポップス・ロック&パフォーマンスコース

ポップス・ロック&パフォーマンスコースでは、9月11日と12日にかけて清里にて1年生を対象としたフレッシュマンキャンプを行いました。これは毎年、サウンドメディア・コンポジション、音楽ケアデザイン、アートマネジメントの各コースと合同で行っている研修イベントです。今回もそれぞれのコース学生が協力し合い、2日目午後にライブを行い、コースの垣根を超えたコミュニケーションがより一層深まりました。これを機に今後の大学でのコラボレーションなどが活発に行われることでしょう。



11月1日には公開講座を開催しました。これは毎学期、第1線で活躍するミュージシャンを招いてのセミナーです。今回は、ブルース・ロックギタリストとして活躍している菊田俊介氏をお招きしま



した。菊田氏は毎年世界各国のブルースフェスティバルに出演する他、全米放送のB.B.King特別企画のバンドマスターに抜擢されB.B.本人と共演、またグラミー賞ノミネートシンガーのココ・テイラーの専属ギタリストを10年間務め、多くのCDを発売するなど世界的に活躍しているギタリストです。講座の前半では、ブルースからロック・ポップスのスタンダード曲を用いて、ブルースの歴史に沿いながらアカデミックな視点でコード進行を解説、後半では実際に学生とのセッションを行いました。菊田



氏のデモ演奏からセッションの実践的アドバイスまでの多岐にわたる内容は、満員の学生たちが満足した結果となりました。

11月29日には2号館中アンサンブル室にて、学生企画運営による“有志ライブ”を開催しました。この企画ライブは学生の能動的な演奏参加を促すと共に、ライブの企画運営も含めてのライブ経験をしてもらう目的で始めたものです。今回は通算4回目となり、新たに“Pickup Live”というイベント名称を決定しての開催となりました。今後は、コースで毎学期行う学生自主企画として定着させ、より積極的な参加を促し、学生自身が様々な経験を積めるイベントとなることを目指していきます。また、エンターテインメント・ディレクションコースとの合同企画イベントとしての開催も継続していきます。今回はジャズからポップス、ロックまでエントリーしたバンドが白熱した演奏を繰り広げ、観客であるコース学生には大きな刺激となったことでしょう。

ジャズ&ポップスコース 教授 上田浩司

エンターテインメントディレクションコース

今年、エンターテインメントディレクションコースは初めての卒業生を出すことになりました。「危険がない限り、やりたいことは何でもやらせて、それを教員が見守り、その課程で教育して行く」、そんな方針での4年間、23名の卒業生の中には東京を含めてプロとしてステージ創りに携わる人材が多く誕生しました。

上級生が進化すればそれを見続けている後輩も自ずから成長します。このサイクルが出来上がればコースそのものも進化します。エンターテインメントディレクションコースが極めて実践的なコースとなれたのは、1期生たちの前向きな姿勢があつたからだと確信しています。

1-2年生の時はステージ制作に関する全ジャンルを学び、3年生からは「演出コース」「音響コース」「照明コース」に分かれて、より専門的な知識の獲得を目指す。今年もこの方針で進んで行きたいと思っています。

現在では外部スタッフに頼ることなく、全てのスタッフワークをエンターテインメントの学生だけでこなせるようになり、その結果、名古屋芸術大学の各種パフォーマンスの質が明らかに向上しました。

来年の2月には2回目となるエンターテインメントディレクションコースの公演が予定されています。この公演も、企画・演出・舞台美術・照明・音響の全てをコースの学生たちが担当します。

更に、ミュージカル、声優アクティング、ダンスパフォーマンスコースの公演もエンターテインメントディレクションコースが制作を請け負うことになりました。

お時間がありますれば、どうぞ劇場に足をお運び下さい。

声優アクティングコース

本コースは、昨年4月に新設されました。新しいコースという事で手探りでスタートとなりましたが、1年を振り返ると、前期は通常の授業をメインに、後期にはプロの声優をゲストに迎えた特別授業を行ったり、西キャンパスの学生達とコラボレーションした作品を創り上げる事ができました。以下、主なものをお伝えします。



11月4日、「NARUTO」のうずまきナルト役などで知られた声優の竹内順子氏を招き、東キャンパス3号館ホールにて公開講座を行いました。そこでは、竹内氏自作の絵本をスクリーンに大きく映し出し、声優コースの学生達がマイク前で朗読を行いました。竹内氏の熱心なアドバイスを聞きながら、学生達も一生懸命に役を演じていました。

11月29日、12月6日の2日間、「HUNTER×HUNTER」のレオリオ役などで知られた声優の郷田ほづみ氏(本学特別客員教授)を講師として招き、アニメ教材を元にしたアフレコ実習を行いました。郷田氏には、ベテラン声優ならではの視点から指導をして頂き、学生達はとても刺激を受けている様子でした。

12月には、西キャンパスのライティングコースの学生達が書いたラジオドラマを、声優アクティングコースとミュージカルコースの学生達が演じ、さらにサウンドメディアコースの学生達が音楽やSEをつけ、オリジナルラジオドラマを完成させました。西キャンパスとの初めての本格的なコラボレーションでしたが、どの学生にとっても大変貴重な経験となりました。

2019年1月20日には、声優アクティングコース1年生修了公演「Dream Chasers(ドリームチェイサーズ)」を、東キャンパス3号館ホールにて開催しました。公演は、学生達のお芝居はもちろん、西キャンパスの学生達が創った映像とコラボレーションした華やかな歌やダンス、さらに西キャンパスの卒業生が作成したオリジナルアニメーションの生アフレコなど、盛りだくさんの内容となりました。また今作では、郷田ほづみ氏(本学特別客員教授)も俳優として出演。その熟練した演技や、高いアフレコ技術は、共演した学生達にとって大変勉強になるものでした。

来年度も、声優アクティングコースでは、東・西キャンパスの垣根を超えた、ボーダレスな催し物を開催していく予定ですので、どうぞご期待下さい。



音楽ケアデザイン・音楽療法コース

9月10、11日には、ポップス・ロック、サウンドメディア、アートマネジメントコースの1年生と合同のフレッシュマンセミナーに



山梨清泉寮に行き、各コースの特色を活かした学生企画のライブセッションを開催しました。また、この半年で学んだこと、経験したことをまとめプレゼンする機会を通し、よい振り返りの時間を持つことができました。



10月13日には、日韓バリアフリーコンサートを行い、学内音楽療法グループの参加者と卒業生の音楽療法士、そして学生とともに共同パフォーマンス

を行いました。コンサート前日は、韓国の障がい者演奏家グループとの交流会を通して、お互いの福祉、社会状況の特徴について認識を深めました。当日のパフォーマンスはどのグループも圧巻で、非常に内容の濃いコンサートとなりました。

12月16日には、2号館大アンサンブル室にて、地域交流クリスマスコンサートを行いました。当日は、午前、午後の2部構成でどちらも会場満員のお客さんをお迎えすることができました。学生もこのコンサートに向けて練習や企画に励み、当日も本当に素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。他にも、北名古屋市社会福祉協議会との連携パフォーマンス、地域の福祉施設の利用者さんの即興演奏など非常に多彩で、ステージと客席の境界を取り払った本コースが目指すコンサートを実現することができました。

2月28日には、卒業生の緩和ケアを専門とする音楽療法士の講座と共に、研究生報告会、卒論発表会を行いました。それぞれがしっかりと準備を行い、立派に発表することができました。また、4年生は、日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験勉強にも励み、見事合格することができました。卒業後の活躍に大いに期待したいと思います。

伊藤孝子

美術学部 / 芸術学部 芸術学科 美術領域

美術領域の日本画コース、洋画コース、アートクリエイターコースでは様々な実技授業や特別講義、講評会などのイベントが行われました。

日本画コースでは、芸術院会員の土屋禮一先生による講評会を4年生と大学院生に、3年生はコース展示で画家の齋正機先生に、また年度末で行われたレヴュー展では佐藤美術館理事・学芸部長の立島恵氏と美術雑誌「美術の窓」編集部の野崎真鳥氏による対談形式の公開講評会が行なわれました。今年度は作家の視点から、また作家を社会と結ぶ立場の方々からの愛情こもった講評会とメッセージを頂き、学生達への励みや意欲、そして具体的な目標の指針となりました。



洋画コースでは11月27日に人気画家の南川史門氏による特別講義「僕の見ている風景」が開催されました。世界で活躍する南川氏の学生時代の作品から、活動や近作についてなど、南川さんらしいユニークな視点や考え方に対して学生は熱心に聴講していました。

特別講義
南川史門 | SHIMON MINAMIKAWA
僕の見ている風景

【日時】2018年11月27日(火) 13時30分~14時30分
【会場】名古屋造形大学 西キャンパス A202
【主催】名古屋造形大学 美術領域 洋画コース

南川史門氏(Shimon Minamikawa)は、1978年生まれ、東京都出身。1998年、東京造形大学美術学部洋画科卒業。卒業後、フリーランスとして活動。近年、国内外で数々の展覧会を開催し、高い評価を得ている。また、数々のアートプロジェクトに参加し、社会と芸術をつなぐ役割を果たしている。

この特別講義では、南川氏の学生時代の作品から、活動や近作についてなど、南川さんらしいユニークな視点や考え方について詳しくお話しします。質疑応答も歓迎です。

定員 30名程度
参加費 無料
申し込み 不要
お問い合わせ 052-731-2111 (受付時間: 月曜~金曜 9:00~17:00)

また12月18日にはドイツ・ベルリン在住の2人組のアーティストユニットITTAH YODAによる特別講義「集合的な夢」が開催されました。シリコンを素材にした有機的な立体作品と映像を組み合わせた独自の世界観で注目されている2人グループです。海外で活動するアーティストのレクチャーを聴くことで学生にとって良い刺激と世界に対するビジョンが養われました。



アートクリエイターコースが中心となって行っている「旧加藤邸アートプロジェクト2018—記憶の庭で遊ぶ—」が北名古屋市にある国登録有形文化財 旧加藤家住宅で12月1日(土)~9日(日)に開催されました。



このプロジェクトは、今回で9回目となり、本学の日本画、洋画、アートクリエイターコースの学生、卒業生たちが古い歴史的な建物や庭から触発された発想やイメージを、どのような造形としてこの場の記憶を新たにすることを目的とした展覧会です。オープニングイベントでは、本学音楽ケアデザインコースの伊藤孝子先生と学生による音楽パフォーマンスが会場で行われ、盛り上がりしました。

また北名古屋市「田んぼアート2018」に関わるのは3年目となります。今年もイラストを描いたり、田んぼの測量に行ったり、カカシを作ったり学生たちが色々なことで田んぼアートに関わりました！今年のテーマは北名



古屋市出身の有名人ということで、侍ジャパンの稲葉監督をモチーフにして学生たちが考えた複数案から監督本人にデザインを選んで頂きました。田植え、稲刈りなども市民の方々と参加し、田んぼアートを完成させました。カカシも学生たちが制作し、お米を見守っております。

美術領域主催の企画展「BEYOND WONDER」Perspectives of Utopia「ビヨンド・ワンダーさまざまなユートピアへの眼差し」が9月29日～10月8日の期間に西キャンパ

スのアート&デザインセンターで開催されました。展覧会のプロデューサーとして東京から今村有策氏、キュレーターとして家村佳代子氏をお迎えして、長年活動を続けたトーキョーワンダーサイトから輩出された作家たちを中心に現在最も活躍しているアーティストの作品群を一同に展示しました。展覧会の会期中10月8日には、秋晴れの清々しい屋外で多くの来場者が集まり、フォーラム「ユートピアへ」が開催され、アートの未来に関する様々なトークセッションが行われました。



今年度の授業を締め括る1年生から3年生による美術領域Review展が1月18日～1月23日に学生各自が日頃制作をしているスペースを活用して行われました。年間



の制作成果を展示することで、その様子を学内外の様々な方々に鑑賞して頂くことが出来るとても良い機会となりました。

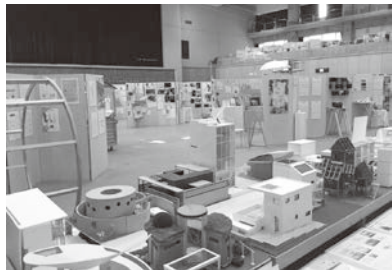
美術領域主任
須田真弘



デザイン学部 / 芸術学部芸術学科デザイン領域

2018年度卒業制作展も昨年に引き続き、大学学内で2月16日から3月3日まで開催されました。直前まで授業や入試で使用していた教室などを学生自らの手で展示空間へと作り替えました。作品制作の追い込みと展示空間制作が重なり、かなりの負担が学生にかかってしまったが、4年間共に学んだ友人と展示空間を作り上げた事は、よい思い出にもなったし、与えられた展示空間ではないことで自らの作品を世に問う姿勢が一層強められたと思う。デザインは世に自らの作品を発表し、そこでの反応を次回の作品制作への糧とすることが大切であり、全ての卒業生にとって原点に戻ってそれをもう一度考えるいい機会になったのではないだろうか。

また、1,2,3年生にとっては、レビューが1年間の自身の制作を振り返り、展示や講評、公開による一般の方からの反応などが、次の制作に繋がる機会になっています。



1, 2, 3年の全学年レビュー



学内開催の卒業制作展

・ビジュアルデザインコースからの報告

津島市との官学連携授業として、津島市内にあるゲストハウスのロゴマークの制作を行いました。ゲストハウス宿泊体験や観光資源の視察、施設代表者との意見交換など、さまざまな過程を経て制作をまとめ上げ、プレゼンテーションを行いました。その結果、渡邊結機さんが制作したロゴマークが選ばれました。このマークはサインとしてゲストハウスに配置されるほか、手ぬぐいなどのアメニティグッズにも展開される予定です。また、コース2年生は、名古屋港ポットラックビルで行われた「なごやのみ(ん)なとまちでなににする?展」に、演習課題「街のかたち・色・文字」の作品展示で参加しました。作品は港にて行ったフィールドワークを整理・分析・分類し、街が持つ目に見えない雰囲気=「まちのいる」を視覚化したものです。港のまちづくりに関心を持つ多くの方にご意見いただきました。3年生のコース展として定着した「ナゴヤ展」は、今年度、名古屋城内の本丸御殿を会場として、「名古屋城の本質的な魅力を伝える」をテーマにデザイン提案を行いました。多くの来場者が予想される本丸御殿での展示とあり、普段の課題とは違う緊張感のなか制作を進め、名古屋市の関係者へのプレゼンテーションを行いました。



津島市との官学連携授業



「なごやのみ(ん)なとまちでなににする?展」



「ナゴヤ展」展示風景



プレゼンテーション



・イラストレーションコースからの報告

6月、長らく機会がなかった研修旅行を2年生で実施し、伊勢神宮と三重県立美術館「ぼくとわたし みんなの tupera tupera 絵本の世界展」を見学しました。tupera tupera展では、学芸員の講義も盛り込み、より作品理解を深めることができました。



8月、小牧市の文化祭「こまぶらフェスタ」のカフェデザインを、4年生が担当しました。



また、後期の授業では、広小路商店街のイラストマップ制作を行いました。現地視察と取材を重ねて取り組みましたが、年度内に完成に至らなかったため、次年度に引き継いで制作します。様々な店主の方々とコミュニケーションから、多くのことを学びました。



イラストレーションコースでは、学生たちはそれぞれ集中して制作活動を行いました。

4年生の河合史苑さんは、すでに在学時よりイラストレーターとして活躍し、卒業後はフリーのイラストレーターとして独立する予定です。

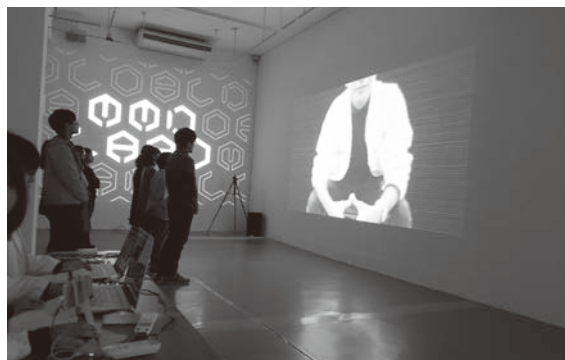
・メディアデザインコースからの報告

メディアデザインコースでは、毎年12月に授業の一環として1日だけのライブパフォーマンス『Media Live』を上演しています。3年生全員で今だからこそ伝えたいテーマを自分たちで見つけて具体化し、それを様々なメディアを使って表現する「伝え方デザイン」の実演です。グループで制作することにより、社会性を身につけていくことも目的の一つとしています。

今年は「身体にバグを起こす」と題し、五感に及ぼす影響が新しい体験へ繋がっていくことを表現したイベントとなりました。



Media Live



・メディアコミュニケーションデザインコースからの報告

夏休み高山市の小・中学生を対象に1日芸大生を実施する。今回はく太陽光でシルクスクリーンプリントに挑戦！>という実験的な技法を事前に印刷工房の大沢さんの協力を得て前期にシルクスクリーン課題を制作した2年生と教員で試作実験をし高山からの小学生3年生から中学2年生15名を迎えた。本格的なプリント技法の講義に耳をかたむけ、Tシャツの胸に描くイラストをそれぞれイメージしていった。版をつくる工程では屋外で太陽光をシルクの版に感光するデモンストレーションを体験。記録的な猛暑で全員が屋外で制作するのは困難であったため、印刷工房の機械も活用した。午後からはTシャツとエコバックにプリントする工程に進み全員が失敗することなく完成した。

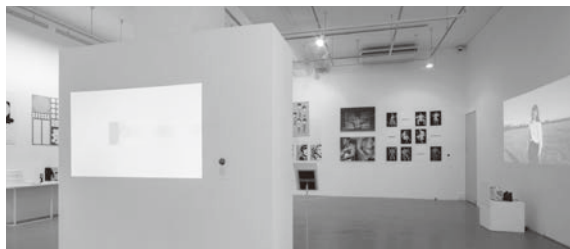


・MCDが関わっている産官連携プロジェクトはほぼ学年全員で取り組んでいるが、グループワークとしてリサーチやミーティングを経て一つの形にしプレゼン形式で提案する場合や、企業からの意向を基に個々にコンセプトをきめボードにまとめ提案する場合などがある。昨年は「てんぱく音楽祭」のロゴの依頼を受けMCD2年生5つのグループが提案し採択案が決定した。昨年決定したロゴを引き続き使用し今年度はあらたにA4リーフレットとポスターの依頼があった。今年は2,3年生全員39名がそれぞれA4リーフレット案を制作した。3名が次の提案に進み、最終案は2年生の作品で決定。A2ポスター

とA4リーフレットの初めての入稿にとまどいながら完成に至った。社会に対する意識をもち責任を持って修正を繰り返していく体験は貴重なものとなった。



・11月<MCDデパートメント2018>が開催された。毎年実施しているこのコース展は今年で10回目である。2007年に最初の2年生17名でスタートし、コース名がよくわからないと言われつつづけているが、とにかく課題の多いコースということは認識されているようである。熱意と努力必須でコミュニケーション力のある明るいコースに育っている。3年生が中心となるMCDデパートメントは自分の中には何があるのか模索しながら、作品・インスタレーションとしてアウトプットする。



・今年度MCD研修は一昨年訪れ好評だった現代美術しつかりまわる<直島豊島犬島・島巡りサイトスペシフィックアートツアー>を実施した。美術館に予約しても一度に入場できる人数やバスに乗れる定員、船の時間など制限が多く2,3年生同時は難しく3年のみ。2年生は大阪万博跡地にある太陽の塔、時間がなくゆっくりみられなかったのもう一度じっくり鑑賞したいという民博、今年話題のラーメンミュージアムと、多分野にわたる展示を見学した。見ることと理解することはネットや本などの知識だけでなく本物にふれる体験から学ぶことが重要である。いつか引き出すことのできる真の文化的知識になるはずである。



・ライフスタイルブロック デザインマネジメントコースからの報告

デザインがどのように私たちの社会と密接に関わっているのかを知り、その本質へと実行力を持ったデザイン提案ができるよう、ライフスタイルデザインコースでは、フィールドでの学びを大切にしています。その一環として、各地の自治体とも連携し、実際に地域の方々と共に活動する機会を多く用意しています。2018年度後期には、岐阜県御嵩町、名鉄広見線活性化協議会と協働し、乗客数が低迷する広見線の魅力を再定義し、これまで地域の経済・文化を支えてきた広見線の今後の利活用策、地域との新たな関係づくりを提案する事業を進めています。11月にはその基礎リサーチとして御嵩町内でのフィールドワークを行い、来年度実施へ向けたアイデア提案へと繋げようとしています。



岐阜県御嵩町でのフィールドリサーチ

加えて、愛知県犬山市、犬山市シルバー人材センターと協働し、継続的に行ってきた地域農業活性化事業は順調に実施フェーズを迎えることができました。シルバー人材センターが主となり、新しい農業技術を取り入れたハウス栽培トマトを開発するというもので、地域の元気な高齢者の方々の活躍の場づくりに加え、地域農業の活性化、地域に価値を与える新ブランドの開発という複数の意義を持っています。ライフスタイルデザインコースの有志学生らは、3回のシルバー人材センターの方々とワークショップを経て、ネーミング、アイデンティティ開発、パッケージデザイン、プロモーションツール制作等を行いました。デザイン開発もシルバー人材センターの方々と共に進めていきました。地域みんなで育てる孫のような、愛される存在になって欲しい、という想いから「おいしい花子」と命名され、ロゴマーク等も協

働しながら作成されました。犬山の新しいトマトは順調に生産、販売が行われ、現在では尾張地区を中心に多くの店舗でも販売されています。今後は、次の展開を見越したプロモーション活動を予定しています。



犬山市シルバー人材センターの
皆さんとのデザインワークショップ



学生も参加し行われた、犬山市でのお披露目

今後もライフスタイルデザインコースでは、生活と社会の現場への深い理解に根ざしたデザインを生み出すための教育と実践を重ねていきます。

・テキスタイルデザインコースからの報告

Slow Force アグニエスカ・ゴルダ マーチン・ジョンソン

10月12日～17日 アート&デザインセンター
オーストラリア在住アートユニットの展覧会の企画運営を行なった。環境的に持続可能な営みを、オーストラリアの自生植物を使った染色、名古屋市の有松で学んだ絞り、ニードルフェルト、手彫り、ステンシル、ペインティングで表現した作品。



第35回尾張名古屋の職人展 帽子ファッションショー
10月20日 名古屋市中区栄 オアシス21 銀河の広場
名古屋帽子協同組合からの依頼で、尾張名古屋の職人展に参加した。

6回目となる今年度は「Anniversary 記念日」をテーマに、3年生がデザイン・作成したテキスタイルを名古屋帽子協同組合が縫製、学生自身がモデルになって出演した。



総合展「THE 尾州」

2月20日～23日 一宮市総合体育館

学生が織物組織からデザイン、尾州産地が生産するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 3rd season」の布を展示した。

「尾州の匠ものづくりリレー事業」で4年生石川菜彩さんがデザイン、尾州産地で生産した布を展示。

「翔工房」で3年生中嶋すみれさんがデザイン、尾州産地で生産した布を展示。



合同展示会「コダワリノモノ」

3月13日～15日 ふくい南青山291

学生が織物組織からデザイン、尾州産地が生産するテキスタイル開発プロジェクト「NUA textile lab 3rd season」の布をアパレルデザイナー対象の受注販売会に出品した。

コンテスト入賞

ジャパンテキスタイルコンテストで4年生小島聡一郎くんシーズ賞受賞、4年生酒井里奈さんがシーズ賞受賞、4年生東倉明日香さんがシーズ賞受賞。

染織意匠・図案コンペで2年生正木里歩さんがモザンビーク共和国金賞受賞、2年生明珍和香さんモザン



ピーク共和国銅賞受賞、
2年生岩田尚子さんモザン
ピーク共和国入選、2
年堀場帆乃花さんモザン
ピーク共和国入選

活動の様子はこちらをご覧ください。

Face book: NUAtextile

・メタル&ジュエリーデザインコースからの報告

1. メタル&ジュエリーデザインコース3年生から10名の学生を選抜し、「The 26th British Art Medal Society Student Medal Project」に参加しました。本プロジェクトは英国美術メダル協会が主催する英国内の美術大学を中心とする学生メダル展です。本年度は海外招待校として名古屋芸術大学が東京藝術大学と共同で招待されました。英国の14校と日本の2校から130点のメダル作品が出品され、名古屋芸術大学からは池田若菜さんの「minamio」が佳作に選ばれました。展覧会は4月26日から5月14日までCity of Glasgow Collegeで開催されます。2020年に名古屋芸術大学と東京藝術大学両校で巡回展を企画中です。



「minamio」池田若菜
アルミニウム生型鋳造
"I imagined a person of hydrangea that falls on a quiet water surface. If you watch, I'd like you to imagine the outdoor scenery of the cut-off circle."



上記画像4枚、メタル工房でアルミ鋳造で出品メダル制作中

2. The 10th edition of international medallic project called „Faith” にメタル&ジュエリーデザインコース4年生10名が参加いたしました。本プロジェクトはポーランドのニコラウス・コペルニクス大学の主催するオンラインメダル展です。世界各地のメダルアートを教える10校の美術大学が参加しました。展覧会は各大学構内でのポスター展示及びオンラインでの展示が行われ国際美術メダル連盟のホームページ等で紹介

されました。

ニコラウス・コペルニクス大学の紹介サイト

<http://www.rzezba.umk.pl/?„faith”-international-medallic-project-2018,446>

国際美術メダル連盟のホームページ

<https://www.fidem-medals.org/student%20projects.html>



プロジェクト参加者

3. クラフトブロックとして「素材展」を2018年7月20日～8月1日までアート&デザインセンターで開催しました。2年,3年,4年、院生の学生達が、パート1、パート2の2週間にわたり作品を発表しました。



展示風景

・インダストリアル&セラミックデザインコースからの報告

新東工業株式会社との産学協同プロジェクトに3,4年生で参加「介護見回りロボットのコンサルジュ」をテーマに、新東工業担当者へ毎週プレゼンテーションを前期に行い、学生が制作した模型を介護施設に展示、介護施設担当者や介護高齢者からアンケートを取り、「夜間見回ってくれて親近感のある最終デザイン案」を決定。夏休み期間に原寸模型制作、後期に原寸図面、センサーの位置や細部の検討を行い、外装色の検討で最終確認を終え、外注業者へ製品製作を依頼し、3月に動作試作機が完成し、その成果発表を下記の会場で行った。

3/18(月)最終成果発表会 〈知の拠点あいち〉



出来上がった最終の製品

3/19(火)、20(水) 中産連 ネクスト・イノベーション・テクノロジーフェア 2019 (吹上ホール)
 3/26(火) 第6回豊橋技術科学大学シンポジウム(ホテルアソシア豊橋)



学生案のスケールモデルとアンケートの様子

・カーデザインコースからの報告

カーデザインコースでは、2018年度特別客員教授に、BMWデザイン部門エクステリア・クリエイティブディレクターの永島譲二氏を迎え、ワークショップと展覧会&講演会「ヨーロッパ自動車人生活」を開催しました。



ワークショップの様子

ワークショップは11月8、9日に本学カーデザインコースとIDコースの2～4年生を対象に「曲面表現と乗用車デザイン」をテーマにスケッチ

実技の特別講義を開催、大変丁寧な指導をいただきました。学生にとってははめつたにないチャンスで真剣にペンを走らせていました。また学生向けにギャラリートークもお願いしました。



11月10日(土)には本学西キャンパスB棟大講義室にて、「ヨーロッパ自動車人生活」を開催しました。この講義は、名古屋芸術大学開学50周年のイベントとして企画された永島氏のイラスト展「ヨーロッパ自動車人生活」(名古屋芸術大学アート&デザインセンター11月2日(金)～13日(火))と合わせて開催されたもので、午前中に行われたギャラリートークに引き続き、本学学



講演会「ヨーロッパ自動車人生活」

生に加え一般の方にも公開され、デザイン関係、自動車会社など、多くの方にお集まりいただきました。講演会、展覧会とも大変盛況で、多くの来場者がありました。



展覧会場でのギャラリートーク

この展覧会作品はガーグラフィック誌と共同で画集にまとめ販売することもできました。

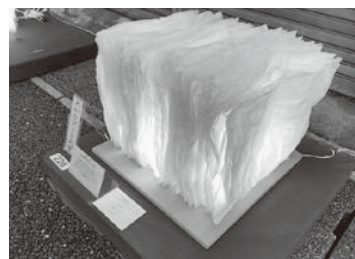
この展覧会が好評で追加展示の依頼があり、アウトギャラリー・ルーチェ、カーグラフィック社、名古屋芸術大学の共催でアウトギャラリー・ルーチェにて2月2日～4月30日まで2回目の展覧会として「永島譲二の世界“水彩画とフランス車”」を開催しました。

このほかにもカーデザインコースでは自動車技術会秋季大会で、前年度のトヨタ車体との産学プロジェクトのポスターセッションでの発表や、豊田合成との産学プロジェクトを実施。さらにIDコースと連携してのナガサキ工業、新東工業のプロジェクトなど多くの発表や研究を実施し忙しい1年となりました。

・スペースデザインコースからの報告

スペースデザインコースでは、授業内での作品制作だけでなく学内外の展示・発表を積極的に行っています。

2年生は、毎年秋に美濃市で行われる「あかりアート展」に、美濃和紙を使った照明を制作し、歴史的な町並みに屋外展示し、たくさんの来場者から感想などいただきました。



美濃市あかりアート展出品

また名古屋市の紙屋さん「ペラム」のショールームでその場所のリノベーション案を模型や図面、商品案などを展示させてもらいました。



ベラムショールームでの展示

3年生は子どものための読む空間で使用する家具や無垢材を使ったスツールを制作し、学内展や図書館などで展示、レオパレスのマンションの1室をリノベーションする体験もしました。

今年度も卒業制作展が学内開催のため、スペースデザインコースでは日頃の実技室を、作品と空間が一体化した展示空間として、コース担当助手と共に学生自らで作り上げました。

特別客員教授としてスキーマ建築計画の長坂常さんに来ていただきワークショップ課題に3学年合同で取り組みました。



SDコース展3年生展示風景



榎木館でのスツールの展示



マンションでのリノベーション



卒展会場



インターフェイスをテーマに課題に取り組む

・文芸・ライティングコースからの報告

文芸・ライティングコースでは、2018年の9月と11月に、岩崎書店の編集者石川雄一氏（2018年度特別客員教授）に講義をして頂きました。「科学絵本の企画編集」や「児童書における写真と言葉の関わり」といった具体的なテーマに基づく講義をとおして、本を作る意義や編集における工夫について学ぶことが出来ました。2019年3月には、学外授業として東京・飯田橋にある岩崎書店編集部と印刷博物館を見学しました。

また、シナリオ創作・小説創作の授業の一環として、名古屋の劇団クセックACTの榎原忠美氏主演の朗読劇『外科室』（泉鏡花原作）を鑑賞し、小説と脚本の違いや、舞台における言葉の用いられ方について学びました。上級生は、実際にラジオドラマの脚本を執筆し、書き上げた脚本のキャストおよび音源を、音楽領域（声優・アクティングコース/ミュージカルコース/サウンドメディア・コンポジションコース）に担当頂き、本格的な作品に仕上げました。

前期から進めてきた企画、「一年間の自分の好奇心を満足させる本棚を作ろう」の集大成として、それぞれの学生が執筆した「本棚レポート」（自分が本棚に並べた本について客観的な視点で報告する）と「今年の一冊」（お薦めの一冊を書評形式で紹介する）をまとめた『ワタシタチの本棚』という本を作成しました。



石川氏による講義



朗読劇（泉鏡花『外科室』）の観賞

芸術教養領域

ここでは芸術教養領域の2018年度における学生の授業内外の活動を中心に報告します。本領域の活動全般を知りたい方は、本誌バックナンバー(63～65号)や、芸術教養領域のWEBサイト(<https://www.nua-la.jp/>)もご覧ください。

二年間の授業を終えた芸術教養領域

芸術教養領域は2017(H31)年4月にスタートしました。本稿執筆時の3月上旬段階では、2カ年の授業が終了しており、学生たちは、それぞれ有意義な春休みを過ごしていることでしょう。

芸術を含む幅広い教養を身につけた人を育て、社会に送り出すことが芸術教養領域の教育目標です。今後、AI技術の進歩などにより大きく変わっていくと予測される社会で、卒業生たちが大学時代に培った力を発揮し、自らと周囲とコミュニティーを支えていくことを希求しています。このため、芸術教養では、いかなる分野でも必要と考えられる五つのリテラシーの科目と、視野を広げる科目、グループワークをする科目を必修にしています。

五つのリテラシーの科目

芸術教養領域では、ヴィジュアル、サウンド、日本語、英語、情報の五つのリテラシーを身につけるための科目を複数設定しています。

学生は、1年次に視覚的、聴覚的なリテラシーを養うための実技系科目を履修します(ヴィジュアルリテラシー1・2、サウンドリテラシー1・2)。1年次後半から2年次にかけては、日本語・英語・情報のリテラシーを涵養します。これら五分野のリテラシー科目では、今年度、着信音や簡単な楽器制作、ラジオドラマや、キャンパス紹介プロモーションビデオの制作などを含めた、ことば、映像・画像、音・音楽、IT技術など、これからの社会で必要とされるコミュニケーションに必要な、実践的授業が展開されました。



ヴィジュアルリテラシーの授業風景

以上の科目に加え、視覚や聴覚の様々な文化について知るための「サウンド文化」や「視覚文化」なども1年次に開講しています。学生は、各科目担当教員から課された長文レポート作成の高いハードルに頑張っ立ち向かいました。文章を書くことは社会で生きるための重要な力であるため、芸術教養領域では様々な科目で課すことにしています。

視野を広げる科目

視野を広げる科目も多岐にわたります。さまざまなゲストのお話を聞いて考える「教養と現代2」、「教養文化と職業1」、「教養と地域文化1」では、各科目につき五人ずつ、研究や社会で活躍されている人々をお招きしました。学生は、招聘講師から聞いたことと、それをもとに考えたことをまとめるレポートに悪戦苦闘していました。

上記科目以外に、さまざまな人々や地域を観察する「海外研修」や「異文化体験」という科目もあります。「海外研修」は隔年開講で、今年度はありませんでしたが、来年度は実施される予定です。2017年度は現在の2年生がドイツとイタリアで開催されたアートイベント等に赴きました。

「異文化体験」では、大学近くにある昭和日常博物館(北名古屋市歴史民俗資料館)観察を皮切りに、名古屋市の東別院・西別院・栄国寺・大須観音見学と大須商店街の日帰り調査、まる二日間をかけた伊勢市の観察と調査をしました。これらのレポート作成で学生たちは大変苦労しながらも、優れた報告をしてくれました。この授業の最後は、調理実習を行い、その食材や調理法を入り口として、文化について幅広く考えました。

グループワークを学ぶ科目

グループワークを主とする科目は2年次と3年次に受講することとなっています。一期生の2年生四人は、「プロジェクト2」という演習授業で、大きな力を発揮しました。

今年度は、名古屋市内に掘削された「中川運河」が授業の主な場となりました。この運河は、かつて水上交通を担っていましたが、水運が減少した現在は別の相貌を



プロジェクト2の成果発表会(於:名古屋都市センター)

見せています。2012年策定の「中川運河再生計画」では、北部は「にぎわいゾーン」、南部は「レクリエーションゾーン」、その間が「モノづくり産業ゾーン」とされました。学生たちは、工場が林立する「モノづくり産業ゾーン」で、他大学の学生や高校生たちと工場体験や現地調査を行い、地域の魅力を発見し、認知度を高め、発展に寄与するプランを考えました。学生は、自身の提案を、2/9に名古屋都市センターホールで開催された「中川運河宝探し in factory 報告会」という公開の場で発表しました。身内轟然かもしれませんが、一期生は他大学生や高校生に気圧されることもなく、抜きん出て素晴らしいプレゼンテーションとパネル展示をしました。

この授業以外にも、グループで絵本やラジオ番組を制作する、「アートプロジェクト1・2」などの授業を積極的に選択した学生も、学年を超えて大勢いました。芸術教養の学生グループが作ったラジオ番組は、西キャンパスの美術とデザインの卒業制作展覧会で放送されました。

公開講座

芸術教養領域では、昨年度同様、後援会の助成により、愛知県庁大津橋分室(名古屋市中区丸の内3-4-13)の2階と3階にある「アートラボあいち」で公開講座を三回開催しました。ここは、愛知県営繕課にいた黒川己喜と土田幸三郎によって設計され、1933年に建てられた愛知信用組合連合会のビルです。終戦後の1957年に愛知県へ寄贈された後は、愛知県史編纂室として使われていました。ちなみにその編纂には名古屋芸術大学で歴史学を担当していた教員も参加していました。県史編纂作業終了後は、膨大な資料が片付けられ、1階に「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」(愛知県・名古屋市共同設立)、2階と3階に「アートラボあいち大津橋」が開館しました。「アートラボあいち」は、「あいちトリエンナーレ」などのアート情報発信拠点で、事務局とアート関連の資料が置かれているだけでなく、展示スペースも2階と3階に設けられています。「アートラボあいち」の名に相応しい瀟洒な建物は、名古屋市中区と東区に点在する近代史を伝える建造物の一つで、それらをカバーする「文化のみち」の一角を占めます。



温又柔さんの公開講座のひとつ

歴史とアートというバックボーンを持つこの建物で、公開講座のゲストとしてお迎えした方々、講演概要は、本誌の別頁にある「後援会補助公開講座実施報告」に記しました。本誌前号で報告されたように、全ての回で音楽の卒業生・大学院生・学部生による打楽器の生演奏が披露され、素晴らしい講演に花を添えました。また、三回の講座のうち、12月に開催された橋本麻里氏の回は「教養と現代2」の授業の一部も兼ね、受講した学生も多数参加しました。

チュートリアル

芸術教養領域では、学生の学業や生活を総合的に把握し、的確な指導や助言ができるよう、専任教員四名(茂登山清文、早川知江、津田佳紀、茶谷薫)による個人面談(チュートリアル)を一年間に三回実施しています。今年度も昨年度に引き続き、5月、7月、1月の三回行いました。2年生については、3月末に行う予定です。

学生ができるだけ多くの教員と話ができるよう、複雑なスケジュール調整を担ってくれたのが、学生に大人気の助手の王昊凡さんで、今年度は「助手展」という展覧会にも参加しました。ちなみに、学生たちは王さんと事務員の服部嘉奈子さん、阿部拳士郎さんを大変慕っています。

オープンキャンパス

オープンキャンパスは、主なお客さんである高校生とその保護者、高校の先生方を対象とした広報イベントですが、芸術教養の学生の多くがアルバイトとして大活躍してくれました。2018年度は6/9(土)、7/15(日)、8/18(土)、9/29(土)、11/4(日)、12/1(土)、3/2(土)に開催され、毎回、約10名の芸術教養領域生が働いてくれました。

芸術教養の相談ブースには、お客自身が描いたり撮ったりしたイラストや写真を、缶バッジにするコーナーや、カフェがあります。缶バッジは主にデザイン領域の学生や助手さんが担当してくれたのですが、芸術教養の学生もその技を教えて貰い、お客さんと話して、大学の魅力を巧く伝えてくれました。



オープンキャンパスのカフェ・リベラ



肉まん和蒸し餃子づくり(オープンキャンパス)

カフェコーナーは、供するドリンクとお茶菓子を学生主体で決め、メニューや注文票などのデザインも学生が担い、紙コップのスリーブにも自作ハンコを押すなど、芸術教養らしい運営でした。

このメインブース以外に、受付、案内と誘導、学生が使っている教室や授業内容の説明、ワークショップの補助、餃子と饅頭づくりなどでも、学生たちは大きな力を発揮し、弟妹のような高校生や、親御さんと同じ世代の方々、社会人などのお客さんに合わせた、丁寧で機転の利く対応してくれました。

スクーリングと芸大祭

芸術教養領域では、後期の約1カ月に一度、高校と大学をつなぐものとして(高大接続)、入学前教育(スクーリング)を行っています。スクーリングは専任教員がレクチャーとワークショップ、見学引率、チュートリアルを行うもので、一期生入学前の2016年度から実施しています。

2018年度は11/4(日)、12/1(土)、1/12(土)、2/16(土)でした。9/30(日)に予定されていた温又柔氏の公開講座と同時開催のスクーリングは、台風24号の襲来で中止となりました。11/4は、芸大祭(大学の学



卒業制作展覧会の見学(スクーリング)

園祭)最終日であり、ミニオープンキャンパスとも同時開催でした。「異文化を着る」としたワークショップで、参加者は民族衣装を着て、その衣服の意味などを学びました。12/1もオープンキャンパスと同時開催で、「写真で学ぶ/写真を学ぶ」と題したワークショップを開催しました。参加者はフィルターを作り、それをレンズの前に置き、不思議な写真を撮影した後、その写真の缶バッジを作りました。その場に居合わせたオープンキャンパスのアルバイト学生たちは、自身が入学前に受けたスクーリングを思い出したことでしょう。

1/12は、「Google mapの愉しみ」で、参加者はGoogle mapやGoogle earthを用い、現実空間と仮想空間の狭間での体験をし、映画・アート・エンターテインメントとの関係のレクチャーを受けました。2/16は、西キャンパスの四年生が大学での学びを集大成した大作を出品した、卒業制作展覧会を見学しました。夕方からは、音と映像のコラボレーション演奏会「カレイドスコープ2019」を観覧しました。

「教養と芸術」研究会

前号の報告にあるよう、芸術教養領域の研究部門として設けられたリベラルアーツ総合研究所では、学際的な視点から様々な方々の研究発表会を2017年度から行っています。第5回研究会は11/28(水)の晩に、名古屋芸術大学地域交流センター(テラッセ納屋橋3階)で、後援会の元会長でもある名古屋工業大学技術部の萩達也氏による「視覚障害者向け学習教材の開発一触地図の魅力」の発表が行われました。

研究会は、原則として学生参加はありませんが、様々な方々の研究成果を聞いた教員たちが、自身の授業や研究を向上させていく場であることにより、学生の教育にも資するものとなっています。

2019年度に向けて

芸術教養領域では、冒頭に記したように、芸術を含む幅広い知見と深い思考力を有する人を育て、学生自身のみならず、周囲の人や社会にも貢献していく力を伸ばす場です。ここで、自身の良さを伸ばし、弱点を改善し、成長し続ける意欲的な学生たちの存在もあり、2019年度の入学者数も2018年度の約二倍となりました。これからも学生が健やかに育つよう、教職員一同、努力し続けていきたいと思っています。

芸術教養領域 教務学生主任 准教授 茶谷薫

人間発達学部

人間発達学部では、2018年度入学生より、将来に目的をもって学ぶ4年間を実現するために、2年次により高い専門性を求める4つのコースを選択するコース制を導入することにしました。

- 1年次：学びの基礎力を修得
- 2年次：より高い専門性・実践力を修得
 - ◇保育・幼児教育コース
 - ◇学校教育コース
 - ◇発達福祉コース
 - ◇子ども芸術コース
- 3・4年次：8つの専門領域ゼミナール

これまで先輩方が積み上げてこられたすばらしい伝統を受け継ぐとともに、地域社会が求める保育・教育者の実現に向け、より充実した学びを保証していきます。

学部行事

(1)文化創造セミナー

6月7日(木)1号館702で、文化創造セミナー【環境が変わるフィンランド教育】が行われました。

今回のゲスト講師は、フィンランド在住で幼稚園教諭のアンティライネン千里先生を迎えて開催されました。OECD学習調査PISAでトップレベルの学力を示し、世界的に注目されているフィンランド教育の実情を説明されました。先生と子どもの数の比較、キッズスキル、ポジティブ教育、3歳児から5歳児の1日の時間割等、柔軟性のある時間割や落ちこぼれを作らない教育、教師の自立性が尊重されている等、個性を重視した保育が説明されました。また、日本の保育との違いや多様な子ども達の問題等、学生たちが興味深く聞けるよう説明していただきました。質疑応答では、「先生はなぜ日本ではなくフィンランドで教師をしているの?」という素朴な質問から始まりいくつかの積極的な質問が出て「ありのままの自分であること、他人のありのままを受け入れること」等、丁寧に答えていただきました。海外の保育に対して非常に興味を持つ学生が多くいることが改めて分かった有意義なセミナーでした。「KIITOS(ありがとう)」という先生の言葉で締めくくられ暖かい雰囲気の中で終了いたしました。



アンティライネン千里先生

アンティライネン千里先生

(2)芸祭コンサート

2018年11月3日(土)、「人間発達学部芸祭コンサート」が行われました。

このコンサートは、プレゼン入試等で入学してきた

音楽面に秀でている学生の披露の場として開催して3年目を迎えています。7月28日にもサマーコンサートを計画しましたが、あいにく台風で中止になってしまい芸祭が今年度初めての学部コンサートになりました。プログラムは、前半が独唱・クラシックやジャズのピアノ演奏・バイオリン演奏・迫力ある電子オルガンのデュオとソロ演奏など。後半は、教員4名によるピアノソロの演奏が披露されました。保育・教育者を目指す学生が、優れた芸術的環境の中で自分の特技を披露することができ、どの学生も満足そうな笑顔でした。コンサート終了後、会場から大きな拍手が送られていました。



(3)保護者会

11月17日(土)、第3回学部保護者会を、1年から4年生までの保護者16名が参加された中で行いました。1号館7階で行った1部の全体会では、オープニングで学生生活スライドショーを上映し、溝口学部長からご挨拶と大学動向、安部学科長が学部動向と学生生活状況、豊田学生部主任から平成29年度就職状況及び平成30年度就職内定状況が伝えられました。第2部は希望者による個別面談を1号館3階の各教室で行いました。青年期の学生となかなかコミュニケーションがとれない悩みから大学生活や学業の様子を知りたいという相談が多かった他、就活期に向けての就職相談などがあり、ゼミ担当が中心になって懇切に面談しました。

(4)就職支援セミナー

1月19日(土)、本学1号館1-701で、2年、3年の学生を対象に、人間発達学部「就職支援セミナー」を開催しました。

このセミナーは、就職した卒業生や4年生の就職内定者を講師として招き、先輩の就活体験談や後輩へのアドバイス、また現在の職場や仕事の様子など聴き、学生の職業選択や採用試験に向けての取り組みに活かすことが目的です。

第一部は、保育・幼稚園、小学校、施設、一般企業の分野順に8人の講師から体験談やアドバイスを聴きました。第二部は保育・幼稚園等、各分科会に分かれて、講師から言い足りなかったことや詳しい内容をさらに聴き、学生の具体的な質問や相談に答えていただきました。

参加学生は、3年が66名中58名出席、2年が79名中45名出席、合計145名中103名が出席という盛況さと、学生たちは、物音も立てず、食い入るように

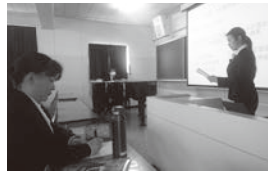
先輩の話に聴き入り、熱心にメモを取っていたという学生の真剣さに驚かされました。



学生のレポートには、「いろいろな先輩の話を知ることができ、頑張ろうと気が入った。分科会で自分の悩みが相談できてよかった。公立の保育所に就職したい気持ちが強まった。保育士・教師以外の進路もあるということを知り、この機会に、しっかり自分のやりたいことを見つけようと思った。自分の将来を考える機会になった。視野を広げているいろいろな職種に挑戦したいと思った。園見学やボランティアなどに参加しておくことが大事だということがわかった。就職には、企業研究と自己分析が必要なことが分かった。」など、自分の将来を見据えた、真剣な感想や決意が書かれていました。

(5)卒業論文・制作発表会

1月29日(火)、卒業論文・制作発表会を各教室で開催し、3・4年次の8つの専門領域ゼミで学修した成果を発表しました。



2・3年生の後輩も参加して、活発な質問や討議が行われ、充実した一日となりました。

(6)春を呼ぶ芸術フェスティバル

2019年2月2日(土)、3年生実行委員が独自に企画運営する「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が3号館2階音楽ホールで開催されました。近隣の市町村の保育所・幼稚園・小学校にチラシを配布し周知していただき、数多くの方々の参加を得ました。今年度は実行委員長をはじめ実行委員の学生の活躍が目立ち、来年度人間発達学部入学予定者や一般の方々の評価が高く素晴らしい内容のフェスティバルになりました。



実行委員による「エビカニクス体操」

プログラムⅠ部は実行委員メンバーの「COSMOS」の合唱、「エビカニクス体操」から始まりました。続いて、水谷映美先生の独唱で「子守唄」「野ばら」「ウィーンわが街」の3曲を、星野英五先生のピアノでショ

パン「アンダンテスピアナートと大ポロネーズ」が演奏されました。



学生による演奏では、4組のピアノソロ、バイオリンソロ、原田慎也先

水谷映美先生独唱

生、宮本未央先生伴奏による2組の独唱やバレエのソロ演技が行われました。音響の優れた音楽専門ホールとスタインウエーD型の鋭い響きに緊張を持って臨んだ演奏後は、いずれも充実した表情を見せていました。1部の最後は、小学校音楽科指導法を履修する学生たちが「この星に生まれて」「ふるさと」の2曲を合唱しました。学生と教員とが、同じ舞台上で日頃の練習成果を披露しあう機会は学部創設以来10年間続けられています。



音楽科指導法合唱

Ⅱ部は吹奏楽クラブ、ダンスサークル、リズム体操部、和太鼓部の演奏・演技で楽しい雰囲気が進められました。最後に実行委員メンバーのUSAのダンスで賑やかに締めくくりました。



全国唯一の総合芸術大学の中の保育・教育学部の特徴がよく出た学部主催のフェスティバルになりました。昨年度からプレゼンテーション型入試で入学した芸術面を得意とする学生の発表の機会を増やすため、このフェスティバル以外にサマーコンサートや芸祭コンサートも開催し、様々な部門で技術のレベルを問うのではなく、一芸に秀でた在学生の発表の場を多く作っています。

(7)美術学部・デザイン学部卒業制作展協力

第46回名古屋芸術大学卒業制作展が、2月16日(土)から3月3日(日)まで、大学の西キャンパスで開催されました。期間中多



くの来場者が訪れ参観されましたが、特に土曜日、日曜日には小さなお子さん連れの方々もお見えになりました。そこで、人間発達学部の1年生が、子供たちにも楽しんでもらおうと土日限定のキッズコーナーを設置し、来場した子供たちと楽しい時間を過ごしました。

人間発達学部長 溝口哲夫

学務部報告

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営、学生支援、国際交流に多大なるご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本学では平成31年度4月から、芸大という概念を打ち破り、学生の世界を拡げ、深める試みとしてワールドディアプロジェクトを開始いたします。このプロジェクトは、芸術・教育の分野で世界クラスの表現力を身につける「アート&エデュケーションセクション」、世界・異文化に自分を伝えるための語学力を身につける「グローバルセクション」、学びを社会に還元するための思考力を身につける「キャリアセクション」の3つのプログラムから構成されています。今回は、3つのプログラムの内、「グローバルセクション」をご紹介します。

ワールドディアプロジェクト グローバルセクションでは、日常会話程度の英語を気軽に始めたいという学生から、さらに高いレベルの英語を学びたいという学生まで幅広いニーズに応える英語学修講座を用意しており、それぞれの英語力に応じて、実践的な英語力を身につけることを目的としています。具体的には、GTECテストを利用して、正課の英語の授業をレベル別のクラス編成とし、学期末にもGTECテストを受験することでどのくらい英語力が向上したかを測定し、「学修成果の可視化」を図ります。成績上位者には、ベルリッツと

協業して、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて高度な英語力を身につける課外講座の受講を推奨します。また、ベルリッツの講師が常駐する「英会話ラウンジ」を開設し、誰でも居ながらにしてネイティブ講師と英語コミュニケーションをとれる環境を用意

します。このように名古屋芸術大学では、他大学にはない、高度な英語学修プログラムを用意し、学生の皆さんに実践的で高度な英語力を身につけていただきたいと思います。

最後に、後援会の皆様の平素からのご支援に対して心からの感謝を申し上げます。今後も皆様のご意見をいただきながら、学務部の運営に努めてまいります。ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学務部長 山田芳樹



大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部 / 芸術学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について 休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	教務学生課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について 就職について	キャリアセンター		
交換留学について	国際交流センター(国際交流センター一室)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

■ 2018年度 東キャンパス芸大祭

2018年の芸大祭は、「IT's 笑 TIME ~そこのあなたも笑いな祭~」としました。

今年度は、日本各地で地震や豪雨などの災害が多く、暗いニュースが続いていました。そんな中で行う芸大祭だった事もあり、私たちから笑顔になることで、少しでも参加していただいた皆様が、自然と笑顔になり明るく元気になるようなものになりたい、という気持ちを込めました。ステージ企画では、各サークルの発表やライブ演奏等見応えが有るものばかりで、皆が参加出来るビンゴも有り、たくさんの笑顔とともに大盛況でした。ゲストには、「空想委員会」をお招きし、とても楽しい時間を提供して頂きました。また、エンターテインメントディレクションコースの学生と協力し、ライブ演奏をより一層盛り上げることが出来たのではないかと感じています。

模擬店では、各サークルや個人等たくさんの学生がお店を出し、お客様も飽きることなく、色々な食事を楽

しんで頂きました。またお子様向けの企画として、毎年大人気のフワフワドームを購入した事に加えて、今回は人間発達学部2年ゼミナールも1号館に出店して、子どもたちも大きな笑顔を見せてくれていました。

芸大祭を運営する私たち実行委員会は、少人数で準備が大変な時もありましたが、その都度ボランティアで手伝ってくれるスタッフや、先生方、協賛頂いた地域の方々に支えられ無事芸大祭を終えたときには、私たちの方が感動し元気で笑顔を頂いた気持ちでした。反省点も多くありましたが、少しでも恩返しできるように来年度もさらに有意義な芸大祭になるように努めていきたいです。

改めて関わって頂いた皆様と参加して頂いた多くのお客様に、感謝を申し上げるとともに、次回も今年度以上のご参加お待ちしております。

東キャンパス 芸大祭実行委員長 野田 成美



■ 2018年度 西キャンパス芸大祭

2018年度の芸大祭は「めたメタ」というテーマにより開催されました。この「めたメタ」には、滅茶苦茶、めったに、変身などの意味が込められており、学生一人ひとりの個性が無茶苦茶に入り乱れるめったに味わえない瞬間を共有することで、みんなが新しい自分に変わるよという願いを込めてこのテーマに決定しました。

11月3日、4日の二日間で開催された芸大祭ですが、今年は天候によるスケジュール変更や騒音被害もなく無事に芸大祭を終えることが出来ました。また、多くの学生の協力により昨年と同等の出店数を獲得することが出来たとともに、多くのステージイベントや外来イベントを予定通り無事に終えることが出来ました。

古くから続いている芸大祭。時代とともに色々なことが変わり、これからも変わってゆくのだと思います。そんな中でも昔と変わらずに「楽しい芸大祭」が続けてこられたのは学生や教職員の熱意、地域の方々の助けがあったからだと思います。

これからも様々な「楽しい芸大祭」が続いてゆき、芸術やデザインの素晴らしさが多くの人々に伝わってゆくことを願っています。

西キャンパス 芸大祭実行委員長 天野 亘章



皆さん受賞おめでとうございます!

2018年度の本学在学学生(学部及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人および教員を通じて広報企画部に報告があった内容を掲載しています。

音楽学部、芸術学部 音楽領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2017年						
3月20日 ※日付は録音日	日本プロ音楽録音賞	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会	ハイレゾリレーション部門 優秀賞	録音	卒業生	長江 和哉
					卒業生	島田 裕文
					卒業生	村上 健太
2018年						
5月 3日・4日	第9回岐阜国際音楽 コンクール	岐阜国際音楽祭 実行委員会	弦楽器部門 専門の部 第1位	ハーブ	卒業生	高田 知子
10月21日	第24回みえ音楽コンクール	三重県文化会館	声楽部門 大学生、大学院生の部 第2位 岡田文化財団賞	声楽	大学院2年	山路真里奈
12月4日	第28回日本クラシック音楽 コンクール	一般社団法人 日本クラシック音楽協会	フルート部門 一般の部 第4位	フルート	卒業生	横田 愛
12月6日	学生の制作する音楽録音 作品コンテスト	一般社団法人 日本オーディオ協会	最優秀賞	録音	卒業生	山下 真澄

美術学部、芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2018年						
	紙芝居プロジェクト	ユニー株式会社	審査員賞	3年	洋画	佐藤 華波
11月8日	第13回 CBC翔け!二十歳の記憶展	CBCテレビ CBCラジオ	グランプリ	3年	洋画	浅野 克海
			準グランプリ	4年	CAP	西村 美香
			中日新聞社賞	4年	CAP	岡部 智哉
			CBC賞	大学院1年	日本画	亀山 絢香
			名古屋市 教育委員会賞	3年	洋画	小川那千華

デザイン学部、芸術学部 デザイン領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2017年						
11月19日	第8回ポスターグランプリ	愛知県印刷工業組合 他	特別賞・(一社)中 部広告制作協会賞	3年	ヴィジュアルデザインコース	榊 奈々未
12月19日	荘川町ロゴマーク	荘川町まちづくり協議会	最優秀賞	13DD	ヴィジュアルデザインコース	森 葵
			優秀賞・3位	4年	メディアコミュニケーション デザインコース	鈴木 凌果
			3位	4年	ヴィジュアルデザインコース	水野 真由
2018年						
—	染織り意匠图案コンペ	全国染織連合会	モザンビーク 共和国部門 金賞	2年	テキスタイルデザインコース	正木 里歩
			モザンビーク 共和国部門 銅賞	2年	テキスタイルデザインコース	明珍 和香
—	学生限定ゲームデザイン コンペティション	株式会社バンク・オブ・ イノベーション	モンスターデザイン 部門 優秀賞	3年	メディアコミュニケーション デザインコース	丹羽 美月
10月 6日・7日	第25回美濃和紙 あかりアート展	美濃和紙あかりアート展 実行委員会	大賞	3年	スペースデザインコース	須藤 真未
10月 11日・12日	ジャパン・テキスタイル・ コンテスト	公益財団法人 一宮地場産業 ファッション デザインセンター	シーズ賞	4年	テキスタイルデザインコース	小島総一郎
			シーズ賞	4年	テキスタイルデザインコース	酒井 里奈
			シーズ賞	4年	テキスタイルデザインコース	東倉明日香

12月2日	connectA Award 2018	connectA/ 中部クリエイターズクラブ/ 株式会社国際 デザインセンター	コネクタ賞	4年	ヴィジュアルデザインコース	水野 真由
			銅賞	1年	デザイン領域	島谷 研志
			入選	4年	メディアコミュニケーション デザインコース	齊藤あかり
			入選	2年	スペースデザインコース	久保田 稔
			入選	2年	メディアコミュニケーション デザインコース	駒崎 朱音
			入選	2年	ヴィジュアルデザインコース	難波みのり
			入選	1年	デザイン領域	清水 紗良
			入選	1年	デザイン領域	佐藤 里奈

部活動

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	氏名	備考
2018年						
8月 18日・19日	第14回全日本ラート競技 選手権大会	第14回全日本ラート競技 選手権大会実行委員会	自由演技の部 男子直転 第4位	音楽領域1年	田畑 憧汰	リズム体操部
			自由演技の部 男子直転 第6位	人間発達学部 3年	服部 航平	
			自由演技の部 男子直転 第8位 自由演技の部 男子斜転 第4位 自由演技の部 男子跳躍 第7位 規定演技の部 男子総合 第3位	人間発達学部 4年	二村 峻介	

国際交流事業について 組織間連携による国際化推進

今日の国際交流業務は、海外との大学間交流事業に留まらず、教育、研究、大学運営といった様々な分野とも直接的に関わる側面が色濃くなってきています。例えば、「優秀な留学生の獲得」という一側面を考えてみても、そのためには、国際的プレゼンスを向上させるための取り組みや発信が必要であり、留学生在がより出願しやすい入試制度の充実が必要であり、また、入学後の授業や生活面を含めたサポートが必要であり、卒業後に向けた就職等支援が必要であるなど、おのずから多面的な要素に関係してきます。それぞれ、国際共同研究の推進、広報、入試、教務、学生生活支援、キャリアサポート、といった様々な既存の学内組織との連携が必要となります。現在、グローバル化と大学間競争の高まりという社会的背景のなかで、大学の国際化が急務となっていますが、このように、現実的に国際化を進めていくためには組織間の連携が必須となっています。

本学でも近年、そうした連携体制を整えてきました。広報企画部、入試広報課との連携のなかで

は、外国人、帰国子女の志願者が受験しやすい入試プロセスも導入される見込みとなりました。また、教務学生課との連携のなかでは、交換留学制度を活用した提携校への留学がスムーズに実現できるよう、本学の学生の英語力強化のためのプログラムも始まります。また、一昨年度より開始された留学生を対象とした日本語の授業も好評を得ています。

加えて、組織間連携という視点は学内にのみ留まるものでもありません。それぞれに特色を有する日本の教育機関との連携により広がる可能性もあり、自治体の国際関係部署との更なる連携も必要です。海外の姉妹校との関係強化はいうまでもありません。本学でも、二国間ではなく、互いが関係を持つ協定校同士を巻き込んだ、多国間での国際プロジェクトや研究も始まろうとしています。今後も国際交流センターでは、多面的な組織間連携による国際化を推進して参ります。

国際交流センター長 水内智英

2018年度ブライトン大学賞 授与式並びに祝賀会

2018年度ブライトン大学賞授与式を、2月22日(金)名古屋芸術大学西キャンパス B 棟大講義室にて開催いたしました。

今年度はブライトン大学から、Ms. Amanda Bright (美術学部 学部長)と Mr. Duncan Bullen (美術学部 副学部長)の2名が来日されました。2月20日(水)の審査では、卒業制作展の会場である名古屋芸術大学西キャンパス内のノミネート作品を中心に巡り、学生へ技法やテーマについて質問されるなど、熱心に審査をされていました。学生の中には、英語での説明を準備した学生もあり、審査にかける意気込みが感じられました。



授与式 グランプリ授与

授与式では、水内智英国際交流センター長の開式の辞に始まり、竹本義明学長の挨拶、ブライトン大学賞の表彰授与式と続きました。

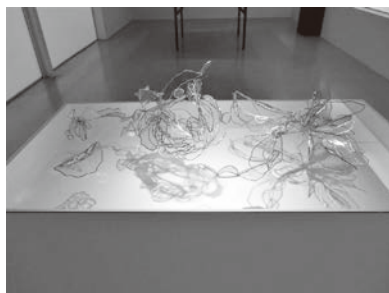


表彰状授与式では、Mr. Duncan Bullen によりグランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名、佳作6名の計10名が順番に発表され、各作品について講評を述べられました。グランプリ発表の際は、観客から歓声が上がリ、受賞者に対して大きな拍手が贈られました。その後の祝賀会は学生食堂で開催され、山内正春後援会会長から乾杯の挨拶をいただきました。

ブライトン大学との交流は22年を迎えました。今年は教員と学生が参加する共同プロジェクトを進めていくとの案も出ており、さらに活発な交流がなされることが期待されます。

2018年度ブライトン大学賞受賞者

賞	学部	コース	氏名	作品名
グランプリ	美術	アートクリエイター(陶芸・ガラス)	渡邊 明衣	spirit
優秀賞	デザイン	スペースデザイン	伊藤 溪又	一坪の贅沢-中間領域としての小屋の提案
奨励賞	美術	アートクリエイター(版画・平面)	宮前 光希	愛憎、命脈、自画像IIなど (ドライポイントによる一連の作品)
	デザイン	スペースデザイン	高田真絵奈	角字×ヒト×モノ
佳作	美術	絵画(洋画2)	井上 七海	キュウブ
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	森 瑞季	Nature Palette
	デザイン	イラストレーション	小幡 信仁	顔ハメ道十七次
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	中村 千里	七十二候グラフィックス
	デザイン	インダストリアルデザイン	荒木 紀充	Mobility as a Tool
	デザイン	テキスタイルデザイン	河西 朗羽	付喪神の集ひ～平成最後の晩餐会～



グランプリ作品 渡邊明衣 spirit



優秀賞作品 伊藤溪又
一坪の贅沢-中間領域としての小屋の提案



グランプリ作品の学生とブライトン教員

第29回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学公開講座は今年で29回目を迎え、東西キャンパス合わせて17講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、木彫、テラコッタ、オカリナ、イラストレーターなどの講座に加え、「色で描くデッサン」などの新たな講座を開講し、多くの方々に受講していただきました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」では「書道を伝える仕事」、「シリーズ講座『研究最前線！大学の知を学ぶ』」では「英語でアート：図工で学ぶ国際化社会の教養」を開講し、大好評のうちに終了することができました。

今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2019年度の講座につきましては、6月下旬頃にご案内する予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター
TEL：0568-24-0359



2018年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	癒やしの二胡	7
	M-03	みんなでチャレンジ！楽しいオカリナアンサンブル	19
	M-04	美しい日本語の話し方教室～言葉を磨いて印象アップ！～	8
	M-05	簡単！デスクトップ・ミュージック (DTM) 講座	12
	M-06	健康な声をつくるヴォイス・コンディショニング	13
	M-07	しなやかなカラダをつくるストレッチング&呼吸法	12
	H-01	子育てと保育に活かせるモンテッソーリ教育	19
西	B-01	美しい水彩画 IX—爽秋の木立、野辺、花、秋を描く	23
	B-02	鉛筆デッサン講座	9
	B-04	木彫を楽しむ partXX	12
	B-05	基礎から学べる陶芸講座	11
	B-06	粘土による自由な造形～テラコッタ～	7
	B-07	色で描くデッサン	13
	D-01	小説家になるための小説創作講座	17
	D-02	「基礎の基礎！イラストレーターとフォトショップ」	7
	D-03	メタルで創るメダル講座	5
	D-04	こども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」 幼児・小学生	7
合計17講座			201

2018年度 名古屋市大学連携講座

日程	講座名	受講者数
5/12・26 7/28 8/11・25	書道を伝える仕事～親子で本格書道体験～	7

2018年度 名古屋市シリーズ講座

日程	講座名	受講者数
8/7	研究最前線！大学の知を学ぶ 英語でアート：図工で学ぶ国際化社会の教養	26



楽しいオカリナアンサンブル



こども造形と形遊び



色で描くデッサン



美しい水彩画区



基礎から学べる陶芸講座



癒やしの二胡

後援会補助公開講座実施報告

美術領域・デザイン領域

今年度は後援会補助費を活用して美術・デザイン領域合わせて、卒業制作展覧会での記念講演会を西キャンパスで開催いたしました。今回からあらためて学内で開催される運びとなった卒業、修了制作展覧会では3名の素晴らしいプロフェッショナルを学内に招き、その会期中3回に分けての講演会を開催しました。

まず記念講演会第一弾は、絶大な人気を誇るスタジオジブリの代表取締役プロデューサーの鈴木敏夫氏を2月16日にお招きして「ジブリの仕事術」の講演が行われました。事前に一般の方々から多くの申し込みがあり、会場を拡張しての講演会が行われました。講演は本学の文芸・ライティングコース教員の禧美智章先生が対談形式で担当しながら、様々なスタジオジブリの裏話やユニークなお話をお伺いすることができました。また講演後の出版販売とサイン会では多くの希望者によって長蛇の列ができ、その人気の高さを感じることができました。



その後、2月23日にはタイトル「ご縁とデザイン」でコミュニケーションディレクター・アートディレクターとして有名な森本千絵氏が来校しました。学生時代の作品紹介から博報堂入社のエピソード、そして様々なCM制作に関わる貴重なお話を頂き、充実した内容と素晴らしい笑顔で会場がとても華やかになりました。



そして最後の記念講演会として、3月3日に建築家の手塚貴晴氏が来校いたしました。暖かな人柄で家族思いの手塚氏のお話は「建築が世界を変える」という壮大なテーマで講演が行われ、ご自身の建築との関わりや、そのア



イディアが次々と湧き出る様子など、建築に対する愛情がお話から伝わってきました。今回の卒業イベントでは3回の記念講演会を開催することができ、非常に贅沢で充実したイベントとなりました。

芸術教養領域

「リベラルアーツ × X」の報告

今年度、芸術教養領域では公開講座を三回開催しました。助成してくださった後援会の皆さまに感謝いたします。講座の月日・講師・概要と、タイトル(カッコ内)は次の通りです。

7/21、当領域非常勤講師で愛知県立芸術大学教授の安原雅之氏がテルミンという電子楽器を持ってきてくださり、その楽器の意外な歴史や、楽器としての特性などを詳しく講じられました【1931(昭和6)年の名古屋におけるテルミン：リベラルアーツ×電子楽器】。

12/9、当領域客員教授で永青文庫副館長の橋本麻里氏が、日本美術の作品と作家、パトロン、歴史的背景に

ついて、多岐にわたる、目の覚めるような興味深いお話をされました【桃山——美と戦いの世紀：リベラルアーツ×美術史】。

2/24、小説家の温又柔氏が、台湾で生まれ、幼児期から日本で育ったご自身の思い出を語りながら、母語、文化、国籍、アイデンティティの関係について心に染み入るお話をされました【リベラルアーツ×副(福?)言語】。

公開講座は学生のみならず、広く社会に「公開」するものです。保護者の方々も学部・領域を問わず、ご来場くだされば幸甚です。

芸術教養領域 教務学生主任 准教授 茶谷 薫

人間発達学部

人間発達学部では、2018年9月22日(土)に、名古屋芸術大学東館3号ホールにて、豊田市福祉事業団理事長であり、前・豊田市こども発達センター長の高橋脩氏を講師にお招きして、特別公開講座を開催した。



高橋 脩先生

講師の高橋先生からは、「発達障がいのある子どもたちの理解と接し方」をテーマに三つの内容を中心に話が合った。

●発達障がいとは何かについて

発達障がいという言葉は、医学的な用語ではなく、2004年にできた発達障害者支援法という法律のによって決められている。この法律は、2016年に改正され、障がいがあるうとなかろうと、一緒に地域の中で育ち生きるということを障がい者支援の基本にしている。共に学び、共に育つ。それを保育、教育の基本とする考え方である。

●二つ目は、発達障がいのいろいろについて

自閉症、ADHD、注意欠陥・多動症などの様々な障がいについて具体的な事例を交えた分かりやすい内容であった。障がいの中には、知的な遅れがないのに、字を書くこと、読むこと、計算をすることが極端に遅れる事がある。生まれつきである。努力不足や環境のせいではない。必要なことは、得意なところをきちんと認め、不得意なところはいろいろ工夫することである。

●三つ目は、発達障がいのある子と家族の支援について

幼児期から学童期に掛けて、それぞれの障がいに必要な支援について話された。「育てる」という言葉と、「育つ」という言葉は全然違う。「育てる」ことになると、育てる人が中心である。「育つ」ことになったら、育っていく子どもが中心である。この二つの言葉をキーワードにして、私は今、育ちを支えようとしているのだろうか自分に問いかけていたみたいと警鐘を鳴らした。

講演会の参加者は、一般の方が173名、学生が201名だった。今回から会場を大学のホールに変更したが、アンケートの結果から、会場について適当であると答えた人が、一般では113名(81%)学生では154名(86%)と好評であ

った。

講演後の意見や感想に「子どものためと思いながら『育てる』ということに意識が向いていたと思います。子どもの『育つ力』を支えていけるように、自分自身の保育を振り返り、見直し、子どもと接したいと思います。」(一般)、「子どもをまわりと同じようにしようと否定するのではなく、個人として認めてあげたり、その子が過ごしやすような環境を作ったりすることが大切だと学んだ。」(学生)など、有意義な学習の場となった。

人間人間発達学部 准教授 久保博満



親の想い

音楽学部 演奏学科 4年 母 野々山早苗

「音楽と共に」

娘は今までの人生のほとんどを音楽と共に過ごしてきました。幼稚園から高校卒業まではエレクトーンを、3年生からは平行してバイオリンを習い、中学ではオーケストラ部、音楽をやめると決めて進学した高校でも、結局は合唱部に所属し、全国大会優勝を果たすなど普通の高校生ではできない貴重な経験を沢山させていただきました。

大学では音楽総合コースに在籍し、エレクトーン始め、ピアノ、声楽、暫く休んでいたバイオリンも復活し、アートマネージメントでもコンサートの企画・運営など多くのことを学びました。また私との約束だった教職課程も何度も辞めたいと反抗しながらも何とか修了することが出来ました。エレクトーンやオーケストラの舞台に立つことも多く、忙しい毎日の中で最後までやり遂げた娘に拍手を送りたいと思います。

このような音楽尽くしの娘の人生と共に、私自身も音

楽を楽しんで来られたことに今は本当に感謝しています。また、小さな頃のレッスンの送迎に始まり、演奏会・コンクールの衣装の準備、応援等々を通し、二十歳を過ぎた今に至るまで近くで子供の成長を見守ることが出来たのは親として、掛け替えの無い貴重な時間でした。

就職にあたり、一旦は諦めた音楽の道ですが、縁あって障害のあるお子さん達に芸術を通じた自立支援をしているNPO法人に就職が決まりました。4月からは事務の傍ら子供たちにピアノやバイオリンを教え、将来的にはコンサートの企画や合唱指導など学んだ事、やりたかった事全てに携われる可能性も生まれてきました。好きなことを仕事に出来る人は多くありません。今まで音楽が自分に与えてくれた幸せを今度は他の人に沢山お返しできるよう、どんなことでも真面目に一生懸命取り組んで行って欲しいと思います。

芸術学部 芸術学科 デザイン領域1年 父 石黒和広

「君に願うこと」

「幹人芸大受けるんだって」進路希望最終の時に妻から思ってもいない一言からここ名古屋芸術大学とのお付き合いが始まりました。

子供達に普段から話している事は「一番やりたい事、悔いを残さない一番を選ぶ」そんなことを話していました。けど、どうしてあれだけ行きたかった京都に行かないのか、何をしたいのか？疑問が沸いてきます、そして不安も。

しかしそれは私の不安であり、彼の選択は間違いでないと感じたのは受験の前に夢を聞いた時です。小さい時から写真を撮ったり、楽器を演奏したり、その延長線上に彼の夢がある。彼は大きな目標を実現しようとしている、当然失敗もあるし大きな壁もある、けれど諦めないで前に進んで欲しいとあの時思いました。

今私の出来る事は・・・特に思い付かないが、当然親として将来の事を思い考え行動しなければならぬ(教科書通りだ)しかし少し距離をおいて見守りたいと考える。それは彼が自由に楽しんで欲しいと思うからです。

彼への思いは、何時でもクリーンな状態にしておきたいと考えています。夢の実現に向けて全てを吸収し行動する。残念な事に私は絵の知識は無い、彼が描いた絵は上手いのか下手なのか正直分かりませんが、観る人にインスピレーションを与える作品、そんな作品を観たいと

私は願っています。その為にも時間を無駄にしてほしくない、たった四年間長い様で短い時間を有効に使って欲しい。当然ですが解らない事は学校に聞き間違いに気付けばその都度修正する、自分を信じ未来に向けみんなと学び、切磋琢磨し世界へと羽ばたいてほしい、と、思っています。

まだ彼が幼稚園の頃この場所で音楽を聴き、絵を観たり楽しんで覚えています。私がかここで得た感動を次の人達に伝えてくれたら、ここを選んでくれた彼を誇りに思いますね。

二度と無い学生生活を楽しめ！



子の想い

芸術学部 芸術学科 音楽領域音楽総合コース 1年 小池奈央弥

名芸の後援会から一通の封筒が届いた。同会から発行されている会報誌に掲載する原稿の執筆の依頼だった。

「自分の思いを綴ってください」

とのことだが、大学側は何を期待しているかは分からない。しかしこういうものは、掲載されている内容に興味があるのではなく、掲載されているという事実が一番意味がある。また一方的に送りつけられた執筆依頼には締め切りが設けられ、しっかりと結果まで求めてくる。世知辛い世の中だと感じた。

世知辛いといえば最近の音楽業界を思い出す。昔と今、ファンによるアーティストの扱われ方が大きく変わったと感じる。誰も丁寧に扱ってほしいとは言っていない。

筆者が考える理想は、“アーティストにファンがついてくる”というものだ。つまりファンが数多あるアーティストから自分の好きなものを選べるのだ。数年前まではそれが実現されていた。

しかしSNS等が発達しファンとアーティストの距離感が近くなった頃からだろうか。その立場は逆転し、アーティストがファンに合わせるようになりだした。

ファンがSNSを介してアーティストに直接意見を発することができるようになったからだ。最近ではアーティストのマネージメントに対して口を挟むファンもいるほどだ。それに対して反論の一石を投じるようなことをしてみる。すると

「私たちのおかげで音楽できているのに反抗するののか！」とばかりに誹謗中傷の対象となるアーティストを何人も見てきた。いわゆる“炎上”というやつだ。

なぜアーティストがファンに怯えて音楽をやらなければならぬのか分からない。

なぜアーティストはファン対応もよくなければいけないのかが分からない。

“俺たち”は聞く人間のニーズに応えるために音楽をやっているわけじゃない。

近年ではアーティストに対して無償で活動を求めるファンもいる。いや、それはもうファンではない。ただのクレマーだ。自分の立場を理解できず、自分の思うようにいかないと納得できない。

アーティストを何と勘違いしているかは分からないが、“俺たち”はボランティアマンじゃねえ”



デザイン研究科 デザイン専攻 ヴィジュアルデザイン研究 2年 三浦寛文

名古屋芸術大学・大学院にて学んで6年になります。

自分で芸術大学を選んで良かったと本当に思う。

「色」を勉強したいと進んだ道である。

大学にてデザイン・知識を課題提出などにより多くの先生により学ぶことができた。

この大学に関わることにより、多くの講演会などを聞くチャンスがあり実際に今現在、素晴らしく活躍している方々の生のお話を聞き、身近に感じ大変勉強になったと覚えることが多かったです。大学在学中に「色」を勉強課題として特化したこと到大変良かったと思っている。

身近な所では街の中に見ることができる看板などいろいろな色が使われている。その色を使うことにより表現をしたり影響を与えることができるのではないかと思う

ようになった。是非、詳しく知りたくなり研究してみようと思った。例えば、ピンクはピンクセラピーと言って人間の精神状態を安定させる効果がある。又、ブルーは冷静さを与えることができるが、その反面逆に長時間見ていると不安定な気持ちになる。そのようなことが研究により分かった。

今ではプロジェクションマッピングなどにより多くの色を作り表現ができるようになった分、世の中の空気や世相に良くも悪くも反映しているような気がします。

又、動物の生態系も色により大変面白い世界でもある。

今後は仕事に是非、色を上手く使い伝えることが出来ると良いと思っている。

私 が 就職内定 を も ら う ま で

音楽学部 演奏学科 ピアノコース
4年 伊與田 修

私は音楽学部に編入する以前は、人間発達学部に在籍していました。元々ずっとピアノを続けていたわけではなかったのですが、保育士になるには必須だということで、入学と共にピアノを再開しました。そしてピアノを続けていくうちにピアノがもっと上手になりたい、もっと理解できるようになりたいと思い、3年編入することを決意し、ピアノコースの先生に師事しました。そして実習に行く度に、自分は保育士、小学校の教員にはあまりなりたいたと思わなくなり、より一層ピアノに打ち込みました。その後ピアノコースに編入し、学内演奏会や卒業演奏会に出させて頂いたり、コンクールに出ることで、とても充実した日々を過ごすと共に、人間発達を卒業した時点ではいかに自分が幼かったのかということがわかりました。音楽学部と人間発達では、過ごしている人のタイプや雰囲気の違い、様々な人、先生方と関わることで自分がとても大きく成長できたと思います。

私は就職活動を始めた時期が遅く、3月の就活解禁から始め、とても焦りました。一度だけポートメッセである合同企業説明会に参加し、学内の就活の説明に数回行っただけで就活に関する知識は無く、ESすら知りませんでした。なので3月に入って様々な情報サイトに登録し、知識をつけていきました。そしてすぐに企業説明会に参加し、様々な企業の説明を聞いて、自分に合った

企業で探していきました。そして、説明会で気づいた事は、説明会はすでに一次面接のようなもので、企業は気になる人材に目をつけていると感じました。なので本命であった河合楽器では、とにかくたくさんの質問をしました。質問の内容にも気をつけなければいけないので、企業理念、事業内容をしっかりと把握し、その事に対する質問や、現状直面している問題、ピアノの技術や、デザインに関する質問をして、ほかの人がしないような質問を考えました。そして、説明会の後には、ピアノを弾いてもいいですよと言われたので、数分弾き、少しでも人事や企業の方の印象に残るように努力しました。

就活をしていて大変だった事は、ピアノとの両立です。3つのコンクールと学内オーディションと同時進行で行っていたので、本当に悩んだりすることが多く、人生で一番多忙な時期でした。しかし、先生やキャリアサポート室の方々の温かい言葉、サポートで何とか乗り切ることができました。今考えると、あの時期を1人で乗り切る事は、自分には不可能だったので、先生に話を聞いてもらったり、相談するのは少しでも早い方が良いと思います。

これから就職活動をされる方はとても不安だと思いますが、とにかく周囲の先生、キャリアサポート室の方々に頼ったり相談してください。そして、自分の就きたい職業の路線を曲げず、自分に自信を持って取り組んでください。

(株式会社河合楽器製作所 内定)

沢山の力をもらって

美術学部 美術学科 洋画2コース
4年 中川美香

私は、外国語学科の短期大学を卒業し、現在の大学の美術学科へと編入をしました。就職の為だけではなく、自分が学びたいことを第一に優先し、国際文化と美術に興味があった私は、このような道を辿りました。

幼き頃から、飛行機と空港が好きであった私は、密かに航空業への憧れを抱いていました。就職活動が始まった頃、絶対に航空業に就きたいという思いがある反面、沢山の不安がありました。エアラインスクールに通う人が多い中、畑違いの学部にいる私は上手くやっっていけるのか。もちろん、私自身スクール等通うことも考えましたが、留学や大学編入などで、親に迷惑を掛けてしまっていることを考えると、それは難しい話でした。心細く感じながらも、前の大学で学んだ知識や、本の情報を頼りに就職活動を始めていきました。

このような中で、私はキャリアサポート室の方々に出会いました。航空業への就活対策に経験が無いながらも、私のために航空業について調べてくださいました。

また、知り合いのCAさんにも意見を聞いてくださり、不安がなくなるまで何度も何度も面接練習を行ってくださいました。沢山の方々に背中を押され、自信



を持って就職活動に挑むことができました。選考の日々は、かなり緊張しましたが、当日いらっしゃった現役スタッフさんからの励ましや、今まで応援してくれた家族、友人、事務の方々の言葉を思い出し、楽しんで選考を受けることが出来たと感じています。

今年の春からは、関西国際空港にて念願であったグラウンドスタッフとして働きます。第1志望のCAは惜しくも、あともう少しのところで落ちてしまいましたが、倍率が高かった中で、ここまで自分が来られたことに、驚いています。沢山の応援があったからこそであり、沢山のの人に感謝しています。感謝の気持ちを持ち、恩返しができるよう、これから一生懸命勤めていきたいです。

(CKTS株式会社 内定)

自分だけのデザインを探す

デザイン学部 デザイン学科
 インダストリアルデザインコース 4年 安田駿太

私は元々、文房具の企画の仕事がしくてインダストリアルデザインコースを選びました。しかし、最終的には印刷会社のアートディレクターとして働くことを決めました。

なぜ、私が自分のコースと一見関係のないように見える会社を選び、内定を頂くことができたのかについてお話ししたいと思います。

私の就職試験は3年の2月から始まりました。予てから希望していた大手の文房具の会社の採用インターンに参加することができました。そこでは、有名なデザインの学校の学生達と戦いました。彼らは一人ひとりの圧倒的な個性を持っていました。論理的思考に特化した人、コンセプトualな作品を作る人、レンダリングで美しいモノを提案できる人など、様々な個性が光っていました。その時、漠然と、こんな人達と働きたいと思いました。

私は「人のストーリーを軸にした企画力」を武器にして戦いましたが、経験不足で内定を頂くことはできませんでした。その後、経験不足を補うために文房具を始め、様々なプロダクトデザインの企業を手当たり次第に調べ、試験に臨みました。そうして自己分析と企業分析を進めるうちにプロダクトデザインの会社にはそれぞれデザインの考え方があり、その枠の中でしかモノ作りができないことを窮屈に思いました。



自分の武器である「人のストーリーを軸にした企画力」を活かしつつ、圧倒的な個性を持ったデザイナー達と仕事がしたいと考えたので、印刷会社のアートディレクターという道を選び、無事納得のいく内定を頂くことができました。

私がこの就職活動を振り返って、納得のいく内定を貰うために必要だと思うのは自己分析です。もちろんポートフォリオがなければ勝負することもできませんが、自己分析がなければ勝負したところで負けます。道も間違えます。自分のデザインで最も大事にしていることや志望理由、どんな性格かなどを分析し、あなたのデザインが1番輝く場所を見つけることができれば、内定を勝ち取ることができると思います。自慢の作品達と個性を武器に就職活動頑張ってください。

(凸版印刷株式会社 内定)

人間発達学部 子ども発達学科
 4年 安井春奈

私は大学生活や保育実習、教育実習などの経験を通して、私立の幼稚園で働きたいと思うようになり、それに向けて就職活動を始めました。園によって教育目標や環境が異なるため、どんな幼稚園があるのか、自分が活かせる園、自分が働きたいのはどんな園なのかしっかり調べるのが大切だと感じました。

夏休みには、私立幼稚園連盟の就職説明会に参加しました。実際に園で働いている先生方から、それぞれの園の特徴など詳しく聞くことができ、よりたくさんの園を知りました。もっと詳しく知りたいと思った園を園見学させていただき、実際の子どもの様子や園の環境を自分の目で見て、自分が働いているところをイメージしながら「ここで働きたい」と思う園を見つけていきました。

採用試験を受けるに当たって、大学の先生方に面接練習や絵本、紙芝居の読み聞かせの練習を見ていただきま

した。初めは練習でも緊張してしまいましたが、何度も練習することで次第に解れていき、先生も親身になってアドバイスしてくださり、自分の気持ちを上手く言葉にできるようになりました。また、同じように採用試験を受ける友人と読み聞かせの練習をし合ったりして、お互いの良さを見つけたりしました。

しかし、「ここで働きたい」と思った園をいくつか試験を受けましたが、内定をいただくことはできませんでした。また園探し、園見学からやり直しという状態になり、周りの友人が次々と内定をもらっている焦りや不安もあり、どうしようかと悩んでいるとキャリアサポートの方から園を紹介していただきました。そこで紹介していただいた園のひとつが教育目標や園の環境、雰囲気にも魅力を感じ、採用試験を受け内定をいただきました。

私は就職活動ではたくさんの人に支えてもらったと感じています。これから就職活動をされる皆さんが、「ここで働きたい」と思えるような職場に出会えることを願っています。

(学校法人むつみ学園 扶桑幼稚園 内定)

名古屋芸術大学音楽学部 第46回卒業演奏会

2019年3月7日(木)伏見電気文化会館ザ・コンサートホールに於いて、名古屋芸術大学第46回卒業演奏会が行われました。今回の公演はしらかわホールが耐震工事の為、ホールを変えての開催となりました。今年も各コースから選出された16名(声楽2、ピアノ5、弦管打7、電子2)の学生が出演しましたが、どの学生もそれぞれ個性を發揮して、4年間の集大成といえる素晴らしい演奏を披露してくれました。当日お越し頂いた観客の皆様も、惜しめない拍手を送っておりました。

音楽領域主任 依田嘉明

名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第21回修了演奏会

2019年3月10日(日)伏見電気文化会館ザ・コンサートホールに於いて、第21回名古屋芸術大学大学院音楽研究科修了演奏会が行われました。当日は名古屋ウィメンズマラソン2019の開催日と重なり少々混乱が懸念されましたが、大きな混乱はなく無事迎えることができました。今年は7名(声楽2、ピアノ2、弦管打3)の学生がそれぞれ演奏に臨みましたが、やはり学部とは違う、言わば習熟した演奏で当日お越し頂いた観客を魅了していました。

音楽研究科長 依田嘉明

名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 第46回卒業制作展

第46回(平成30年度)名古屋芸術大学卒業制作展を2019年2月16日(土)～3月3日(日)の16日間の日程で本学西キャンパスを会場として開催致しました。

まずはじめに本年度開催にあたりまして後援会から手厚いご協力を頂きましたことに深く御礼申し上げます。

さて、本年度は新たに大学院修了制作展も加えて展覧会規模を拡大し、地元行政、企業、画塾等、関係各所の代表者を招待してのオープニングレセプション、記念講演会等の関連事業も一層の充実をはかりました。創造活動の息遣いやそれを支える独特の環境が放つ魅力を最大限に引き出し、学生の創造性、発信力を自在に發揮できる場となることを大前提としながら、北名古屋へと少しでも多くの来場者を導くこと、そしてそうした人々に如何に心地良く展覧会を体験してもらえるか。2回目を迎えたキャンパス開催は、このことに対して学生、教員、事務員の総力をあげての大事業となりました。

果たして16日間の会期は天候にも恵まれ大きなトラブルもなく盛況のうちに閉幕することができました。優秀賞や姉妹校のブライTON大学賞、教育長賞その他の賞に輝いた作品をはじめ、すばらしい作品がキャンパス各所に散りばめられた光景は、本学が既にこの北名古屋市、西尾張地域の美術・デザインのホットスポットとしての様相を呈し始めているようにも感じられました。今後は本学の専門性である音楽や子ども教育分野との連携も一層強化しながら、出品者の誇りと来学者の感動をさらに高める卒業展・修了展を目指して次年度開催の計画を策定したいと思います。引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

卒業運営委員会委員長 萩原 周



オープニング
レセプション



総合受付付近



展示風景(ヴィジュアルデザインコース)



記念後援会(森本千絵氏)

名古屋芸術大学大学院美術研究科 第23回修了制作展



大学院の論文等審査試験と研究発表会が2月7日(院1年生)、2月13日(院2年生)に行われました。

大学院2年生は修了制作展を直前に控え、力こもった大作が発表ギャラリーの空間に展示され、各自の作品にかかる情熱や思いを作品の前でそれぞれが語り、多くの教員たちから講評を受けました。その後、大学院の修了展覧会が2月16日～3月3日の期間、今年度から西

キャンパス全体を使用して学部の卒業制作展と合同で開催されました。

昨年度に引き続き、3月1日には特別客員教授の今村有策先生による講評会が修了展の会場で行われ、作品に対する批評や今後の方向性に関する適切なアドバイスを受けました。また修了制作展の会期中には修了生の小笠原盛久さんが中日新聞から取材を受け、日頃の制作の様子などが大きく新聞に取り上げられて話題となりました。

美術研究科長 須田真弘



名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了展

昨年から学内で行われている卒業制作点展と同時開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生5名が出品した。ヴィジュアルデザイン研究の大嶋さんは、独自のグラフィックの手法をブランディングとして落とし込んだ作品を制作、同じくヴィジュアルデザイン研究の三浦さんは、色の特性に着目し絵本という形で提示した。メディアデザイン研究の狄(テキ)さんは、オリジナルストーリーのアニメーションを制作した。3Dデザイン研究の郭(カク)さんは、未来の車のユーザーインターフェイスを制作。同じく3Dデザイン研究の趙(チョウ)さんは中国の古い町並みへの建築提案を行った。

名芸での6年間又は2年間、彼ら自身が研鑽した成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井貞治



2018年度

名古屋芸術大学後援会

研修旅行報告



台風を心配しましたが、傘を1度も使わず天気恵まれ、10月7・8日、信州方面に竹本学長はじめ総勢27名で研修旅行に行き参りました。

1日目、まずは参道の石垣の間に光る「光ごけ」を見ながら霊犬早太郎伝説が伝えられている「光前寺」を拝観致しました。工事中ではありましたが、一面苔の緑の境内はとても綺麗でした。昼食後は、タイムスリップした様な町並みが素敵な奈良井宿を散策し、ゴマやクルミのタレが美味しい五平餅をいただきました。

次に諏訪大社下社春宮で7年に1度御柱祭で建て替える「御柱」を見学しました。樹齢200年の巨木は迫力満点でした。画家の岡本太郎氏も絶賛した「万治の石仏」は近づくとも冷やっと空気が変わり、不思議なパワーを感じました。

横谷峡温泉では、美味しい料理を食べながら、先生方、役員の方と沢山お話しができてとても楽しかったです。

2日目は、神秘的な苔の森でたっぷり深呼吸しながら歩くと、標高2115mにある白駒の池で一足早く紅葉を見る事もできました。

最後に、山下清放浪美術館では、石でできた大きなおむすびがお出迎え。絵を見る角度によって、人や車の向きが変わったり移動したり、トリックアートも沢山ありました。貼り絵には、色紙を表裏使って濃淡をつけたり、お札の柄を使ったりと、ガイドさんがエピソードを交えて丁寧に解説して下さい、絵画にも、ガイドさんのお話しにもめり込んで鑑賞しました。

1泊という事もあり、ゆっくり親睦を深める事ができ、後援会の絆がより一層深まったと思います。皆様のご協力により、楽しい時間を過ごせました事、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

事業委員長 川野佳代



名古屋芸術大学・大学院後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 - (3) その他本会の目的達成に必要なと認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
 - (2) 監事は会務を監査する。
 - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 - (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。
- (1) 総務委員会
 - (2) 事業委員会
 - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。
- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。
- 第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
 - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
 - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

名古屋芸術大学・大学院後援会 弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員の前親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、平成18年6月1日より施行する。

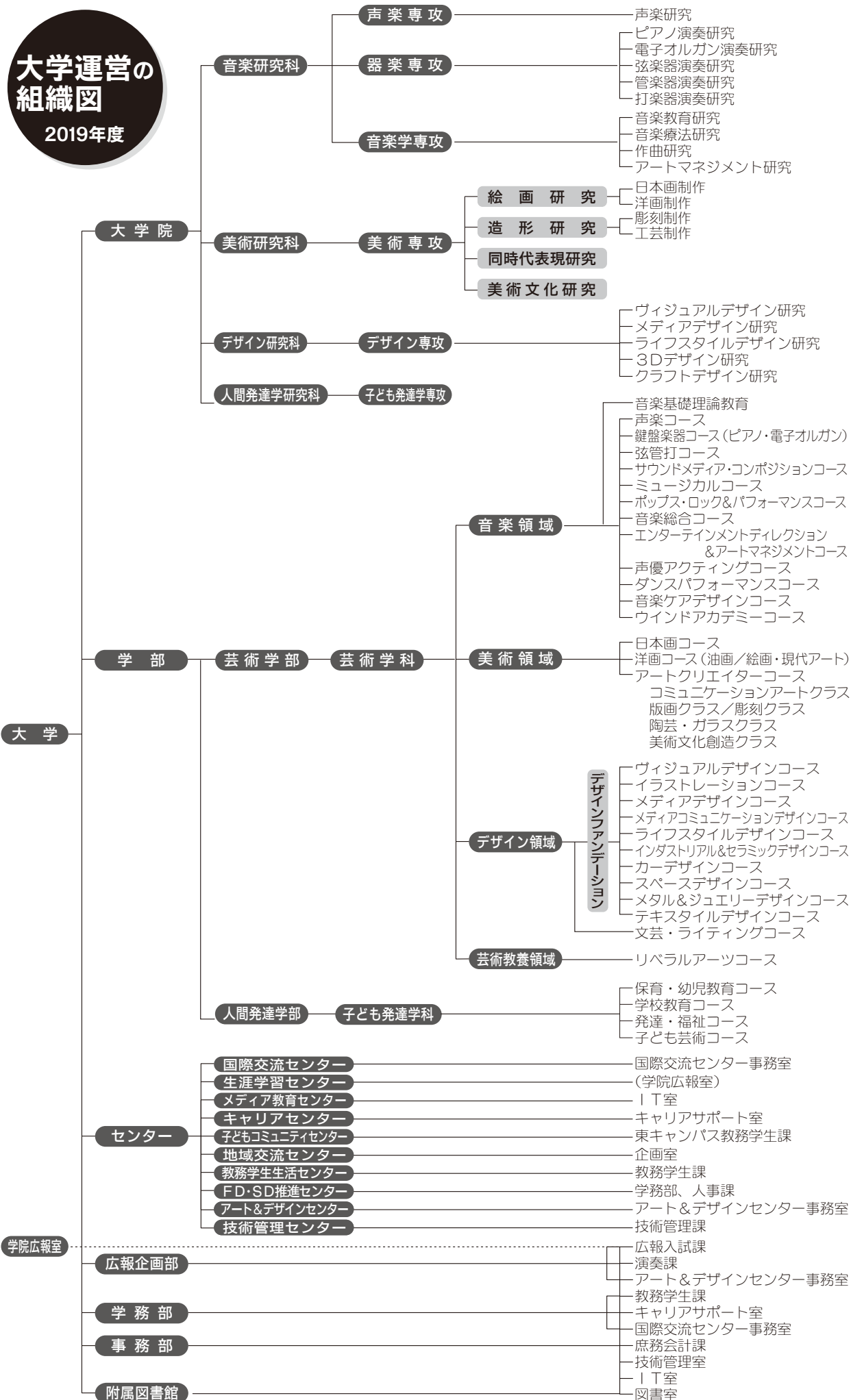
名古屋芸術大学・大学院後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は平成17年4月1日から適用する。

大学運営の組織図

2019年度



「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学後援会の有志により「歌を歌って楽しもう」と19年前から活動している合唱サークルです。美術部の絵画サークル「壁の華」より数年遅れて始まりました。いまでは両方の会員になって活動している方もあります。今年入学された父兄の皆様には5月の定期総会に出席された方々にはすでに案内させて頂きました。まだこの会をご存知ない方々にもぜひとも知っていただきたく、この会員の募集をします。「せせらぎ」とは、小川の流れや音です。合唱は一人の声は小さく弱いのですが、仲間の声を聞き合わせるとカラオケとは違ったハーモニーが出来ます。うまく歌えなくても、心が楽しく、気持ちが浮き立ってきます。この4月からは、団員の歌いたい曲「ハナミズキ」（一青窈：作詞）を10名位の団員で歌っています。皆さんを、団員のみならずお待ちしています。ぜひともこの仲間に加わって一緒に歌おうではありませんか？発声練習の時間も、中学校の音楽の時間歌ったことのある「ローレライ」や「夢路より」を二部合唱で歌っています。

声を出すことで、健康を実感できるこのサークルへ、是非とも加わってください。お待ちしております。

【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで
(都合により変更あり)

【場所】

東キャンパス4号館の3階のオペラ教室
(グランドピアノで練習)

【指導者】

本校の卒業生である山田正丈先生と江端智哉先生に発声の仕方から各パートの音取りを懇切丁寧に教えてもらっています。

〈問い合わせ先〉

会 長 長江 政則
〒480-1214 瀬戸市上品野927番地
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706
副 会 長 千石 智子
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324



絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名古屋芸術大学後援会の有志によって活動を続けている絵画グループであります。毎月一回大学の施設をお借りして大学の先生方により丁寧な指導をして頂いております。油彩、水彩、パステル画を中心に、今年からは日本画についても教えて頂けます。そして、制作された作品を名古屋市民ギャラリーに展示して、皆様に鑑賞して頂いております。今年で第24回の展覧会を、開催し続けております。

この他にスケッチ会、鑑賞会等があります。

最近、若い会員の方に入会していただき、益々賑やかなグループとなりました。

是非、後援会の皆様も「壁の華」の会に入会して頂きませう様お勧め致します。

【活動状況】

- 1、月例会 (月額会費：1,000円)
日時：毎月第三日曜日午後2時～4時
場所：名芸大西キャンパス
- 2、グループ展 (24回継続中)
日時：毎年5月上旬(一週間展示)
場所：名古屋市民ギャラリー 7F
- 3、スケッチ会 11月予定
- 4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

〈問い合わせ先〉

会 長 宇佐見 誠也
〒489-0874 瀬戸市幡野町508
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205
運営委員長 森部 みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話：0587-32-2814 携帯：090-1825-1671



編集後記

編集後記を書くのも今回が4度目、最後の回となりました。

4年前の定期総会で何もわからずに入会を決めてしまった本後援会ですが、学長先生を始め普段お話しする機会のない先生方や大学関係の皆様、さまざまな専攻分野のお子様を持つ父兄の皆様とお話しする機会を頂き、大変有り難く思っております。この4年間で少しずつメンバーが入れ替わり、最近では男性会員も増えて以前より交流も深まり、話し合いも活発に行われるようになったように思います。ここで卒業してしまうのは心残りですが、今後の後援会の皆様のご活躍を楽しみにしています。

最後に、卒業生の皆さんが各々の道で輝けることを、在校生の皆さんが残りの学生生活を悔いなく過ごされることを、そして新たに入学される皆さんに一生の宝物となるような4年間が待っていることをお祈りし筆を置きたいと思っております。ありがとうございました。

広報委員長 野々山早苗

- ◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会
広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆発行日 2019年(平成31年)3月31日

